事	事業名 核 番		299	源流の森づくり事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課 —		
	会記	_	1	一般会計		0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予 算 項		5	農林水産業費	位置付けの		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業	
算			3	林業費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目		2	林業振興費	''		D	その他事業		
	根拠詞	十画		地域振興計画						
ī	市長公約		8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・森林等の自然環境を資源として守り活用するため、		業間3	交流等	等、都市部の自治体との連携等を実施	します	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	50 人						
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する								
概要	事業の 実施手法 (手段)	金を交付する								

2 事業の推移・結果(Do)

ロロスの宇縛	・第20回源流の森つくりの開催(6月25日
H23の実績	- 飛昭二ラウ海法の本ともも11中年系

飛騨一之宮源流の森ふれあい実行委員会による位山登山道整備奉仕活動(10月20日)

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活			目標値	2	1	1
	活動指	イベント回数	回	実績値	1	1	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	50	100	-
	成	イベント参加者数	人	目標値	150	60	50
	成果指標	イバント参加有数		実績値	64	47	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	43	78	-
				目標値			
成				実績値			-
成果面		算出根拠等		達成率(%)			-
Щ				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
			補	足事項			

・イベント参加者数のほとんどが一之宮地域の住民である

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	870	800	700
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		段財源			870	800	700
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	13,594	17,021	14,000
	指標	標 受益者 イベント参加者		(B)	64	47	50

3	分析•評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価					
	評価項目	評価観点	評価基	準 評価	評価内容	字の説明(評価の理由等)	
(Ī)	市民ニーズ	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はとか	日の なる程度のニーブが	iある B		コジェクトや「千代田区と高山市との森林 」など森林に対する市民意識の高まりも	
	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー は減少していないか	C (0) ニーズが低い		あり、自然・林業体験などある程度ニーズがある		
			A ② 事業主体を見直す分	≷地はない	±.1.±1.* 0 000 / ± 1-1		
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1) 一部見直しが必要で	ēある A	・高山市域の92%を占め することは妥当である	める森林資源を市が多面的に有効活用	
			C ⑩ 市が実施する必要性	生が低い			
			A ② 目的とする成果が十	分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1) 目的とする成果があ	る程度あがっている B	・イベント参加者数の達数は年々減少している	成率は増加しているが、イベント参加者	
			C (0) 目的とする成果があが が必要である	ってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できているだけ。 ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		減等の改善の余地はない	・事業コストは、必要最大	小限の経費で取り組んでおり、適正であ	
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担 減する余地はないか	B (1) 事業効率化・コスト縮減	等がある程度図られている A	る ・受益者負担は、参加者 り、適正である	が手軽に参加できるよう配慮されてお	
		・受益者負担は適正か	C (0) 効率化が図られていな 要である	いため大幅な見直しが必	9、旭正でのる		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にながあったか			・林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持するための森づくりイベントを開催することにより森と親しむ機会のが図られている・イベント参加者の多くが地元住民であるため、森林資源		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能し	日()のる性度効果があっ	<i>t</i> : B			
L		か	С (の) あまり効果が見られ	なかった	した地域間交流などにつ	ついては課題がある	
		合計	7 / 10	\rightarrow	100点換算	70 点	
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・他事業と連携するなど地域間交流を視野に入れた取り組みや工夫が必要である							
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)		D波及効果などの分析を行いつつ	、行政の関与を段階的に縮小して	こいく必要がある		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・「いのちの森づくり」プロジェクトと連携したイベントを実施する

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・他事	業と連携することにより、充	実した	内容のイベントを実施する			

		維持・改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	・地域	主体の事業とすべく、特例!	期間終	了を見据え、行政の関与を	段階的	に縮小する必要がある。		

事	事業名		99	観光イベント開催事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431	
	番 - 会計 1 一般会計					0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予款		6	商工費	位別置之		В	一般予算の上乗せとして実施されてし	る事業	
算	項		2	観光費	位置付けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		1	観光振興費	''		D	その他事業		
	根拠詞	+画		地域振興計画						
ī	市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な額	見光資	資源を	を新たな観光資源として積極的に活用し	ます	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	50,000	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・人々のこころを魅了する通年型の観光地づくりを行う			
概要	事業の 実施手法 (手段)	・四季を通じて楽しむことのできる魅力あるイベント(飛騨生きびな祭り、 モンデウス・スペシャルホリデー)を開催する ・イベントを開催する飛騨ー之宮イベント推進実行委員会に負担金を交付		 弾一之宮∙納涼夏祭	IJ、

2 事業の推移・結果(Do)

		H23の実績	・飛騨生きびな祭りの開催(4月2日、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	-5月5日) 月14日)	15日)			
			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活動	イベント回数			目標値	5	4	4
	指	1 21 11 20			実績値	4	4	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	80	100	-
	成	イベント参加者数	t	人	目標値	50,000	50,000	50,000
	成果指標	1 212/113	•		実績値	56,300	45,900	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	113	92	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
山					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値		·	
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

・飛騨生きびな祭りについては、第60回の記念として特別に2日間開催

		(人件費る	事業費 上除き繰越・補正を含む))	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	3,469	2,999	2,800
コス	21.3	益者負担(使用料	•負担金等)				
۲)他特定財源(国	·県支出金•起債等)				
面		段財源			3,469	2,999	2,800
	コスト				62	65	56
	指標				56,300	45,900	50,000

	分析·評価(Che <mark>評価項目</mark>	ck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・地域の特色あるイベンからのニーズが高い	小を開催しているため、市民及び観光を	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・地域の特色あるイベン ことから市が関与するこ	トは地域振興や観光振興に有効である とは妥当である	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・東日本大震災による観光客の増加が見込まれない中、イト参加者数の目標達成率は高い		
			C (0)	目的とする成果があるが必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト約	宿減等の改善の余地はない		・事業コストは、市からの	の負担金が年々減少する中、必要最小	
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В		や地域事業所などの負担金であり、昨年	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		の社会経済情勢では、これ以上の受益者負担増は見込めない 		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1) ある程度効果があった		Α	・地域特有の自然資源や文化資源を積極的に活用したイベン を開催しており、観光振興や地域振興が図られている			
		・中で公利の美現を図る工で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった				
		合計	8	/ 10	\longrightarrow		100点換算	80 点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>課題・イベント参加人数が減少しているたと</mark> りに何が・自己負担確保のため、新たな協力会			う内容の充実を図る必要が	ある			
	(参考) H23事業評価 (二次評価)					縮小して	いく必要がある		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・事業コストの縮減を図りつつ、魅力あるイベントを開催するため、イベントの内容の見直しを実施する

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・地域(に根差したイベントを持続的	りに開催	≝できるよう、イベント内容↑	5運営フ	方法などの見直しを実施す	る		

	維持·改善	拡大	0	縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	主体の事業とすべく、特例類 効果について分析を行い、				がある。		

事	業名	946 枝 番	699	臥龍桜日本画大賞展開催事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421		
	会討	t	1	一般会計	_{7.} 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
予	款		9	教育費	位置付ける		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業		
算	項		4	4 社会教育費			С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目 6			文化振興費	''		D	その他事業			
	根拠計	一画		地域振興計画							
	市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と確保します。	や、若者のネ 継承、新たス	社会を な芸行	参加· 析文(へのやる気づくりにもつながる芸術文化 化の創出のための予算を総予算枠の1	2活動をさ %以上		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・文化芸術に対する関心の向上を図るとともに、人材の発掘、育成をめる・市民(小中学生、一般)が優れた芸術文化(絵画)に触れられる機会をでい、 ・助龍桜の名にちなんだ全国公募展覧会を開催し、国指定天然記念物「	割出する。	言する。	
概要	事業の 実施手法 (手段)	・小中学生部門を設け、審査会・展覧会を開催する。 ・全国の日本画家へ「臥龍桜日本画大賞展」への公募を行う。 ・市内のほか都市部での展覧会の開催。			

2 事業の推移・結果(Do)

・第22回臥龍桜日本画大賞展を開催し、全国より公募の結果、419点の応募があり、大賞1点、優秀賞2点、奨励賞 5点、桜賞1点、入選63点、計72点を選出した。 ・小中学生部門では、市内の全小中学校に募集の結果、18校から479点の応募があり、大賞1点、優秀賞6点、奨励賞9点、入選44点、計60点を選出した。 H23の実績 ・展覧会は、高山展が14日間で670人、岐阜展が6日間で1250人、述べ1920人の来場者があった。

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	仝国 小草に トス l	日本画展の応募作品数	点	目標値	400	400	400
	活動指	土国 4 茶にある	1 不凹成 0 心券 1 市	Ę	実績値	298	419	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	75	105	-
	活	小中学生部門の	応募者数	人	目標値	500	500	
	活動指標	小十十二十二 102	心务自然		実績値	521	479	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	104	96	-
	戍	展覧会の一日当	たりのλ堤老数	人	目標値	100	100	
成	成果指標	成兒女() 口コ	7.500八物日奴		実績値	94	96	_
果面	標	算出根拠等	入場者数/開催日		達成率(%)	94	96	-
山					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

補足事項

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	8,175	8,349	9,400
コマ		受益	者負担(使用料	•負担金等)		2,065	4,324	1,900
<u>+</u>	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面	訳 -	一般	:財源			6,110	4,025	7,500
	コス	VI.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	87	89	101
	指标	票	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		F価基準	評価	評価内容の説明((評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2) ニーズが高い			・絵画(日本画)に興味を持ち、本			
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1) ある程度の二	ーズがある	В	る多くの市民がみえることから、は ・小中学生部門では、毎年多数のき、臥龍展に出品する事が定着し	D応募があり、春には桜	を描	
		は減少していないか	C (0) ニーズが低い			ズは高い。			
			A (2) 事業主体を見	直す余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1) 一部見直しが	必要である	В	・公募展として位置づけられ、継 主体となっているが、今後の事業 が必要である。			
			C ⑩ 市が実施する	必要性が低い					
			A (2) 目的とする成	果が十分にあがっている		・日本画展の応募者や展覧会のり、概ね達成している。	 入場者数も順調に推移	してお	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1) 目的とする成	果がある程度あがっている	Α	・臥龍桜の知名度も全国的に広がり、見学者も毎年多くている。			
			C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である			・日本を代表する日本画家の審査による全国規模の大賞展は、市民に高尚な芸術文化に触れる場を提供している。			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2) 事業効率化・コ			・事業の一部を業者委託で行っている。			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1) 事業効率化・コス			・絵画出品者からは出品料を徴り 優れた芸術文化に触れる機会を 適正である。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			・賞金額や審査員報酬、展覧会開催手法等の更なるコスト削減に向けた検討が必要である。			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A ② 効果があった			・20年以上継続している日本画大賞展は国内でも少 賞展入賞者が他の大賞展の上位入選をしており、過 者が、現在の日本画壇で活躍している。 若手の登竜 人材発掘、育成の成果が上がっている。 ・・小中学生部門においても、桜をテーマにした絵の募		の入賞	
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B()ある程度効果	があった	А				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C ® あまり効果が	見られなかった		の小中学生が多数応募し、著名 術文化の意識の高揚につながっ		け、芸	
		合計	7 / 10	\rightarrow		100点換算	70	点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題・現在の事業実施の中でコスト縮減に かに何が	取り組んでいるが、今後	の開催内容、運営方法を検討し	、 更なる	コスト削減に向けた検討が必要で	ある。		
	(参考) H23事業評価 (二次評価)	- 市美術展覧会、木版画ピエンナーレ	(隔年)を合わせた3つの	公募展の関連や位置づけ、市	民を巻き	込んだ実施方法等について検討 す	⁻ る必要がある。		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・市民が芸術文化に触れる機会を提供するため、展覧会の更なる入場者数の増加をめざし、周知の方法を検討する。・小中学生部門では、若年層の芸術的素養の更なる発掘を目指すため、審査員を交代し、新たな観点による審査を行う。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

0

維持·改善

・今後の実施方法・運営方法等について継続して検討する。・市民に芸術文化に触れる機会を提供するため、今後とも、この展覧会を広く周知する。

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	∙市美征	析展覧会、木版画ビエンナ·	一レ(隔	(年)を合わせた3つの公募原	長の関う	重や位置づけ、市民を巻き	込んだ	実施方法等について検討す	⁻ る必要	ट्टिंगकें

縮小

廃止の検討

事	業名	946 枝 番	699	飛騨位山文化交流館美術展覧会事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3412	
	会討	†	1	一般会計	_{7.} 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行事		
予			9	教育費	位置付けの		В	一般予算の上乗せとして実施されている		
算	項		4	社会教育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目 6		6	文化振興費	''		D	その他事業		
	根拠計	+画		地域振興計画						
	市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがい らに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と 確保します。	や、若者のネ 継承、新たス	社会を な芸行	参加· 析文 (へのやる気づくりにもつながる芸術文化 化の創出のための予算を総予算枠の1	に活動をさ %以上	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	<mark>象) 全市民</mark>	対象者数	92,861	人
目的		・中所風作品の有効活用を図る。 りか・日本画展による市所蔵作品や寒杏昌の作品を鑑賞する機会を利用し	、臥龍桜日本画大賞原	₹の知名度アップを₽	Ÿ
概要	事業の 実施手法 (手段)	・			

2 事業の推移・結果(Do)

第1回~第21回までの大賞作品(23点 連作2作品含む)と高山市所蔵の歴代審査員作品(約15点)の計38点を展 示した展覧会を開催し、4月13日から5月1日までの19日間に延べ557名の来場者があった。

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	足監会の即従り	*	_	目標値	17	17	17
	活動指標	展覧会の開催日		日	実績値	17	19	-
	標	算出根拠等	日数		達成率(%)	100	112	-
	成	開催期間中の入	坦	人	目標値	650	650	650
	成果指標	州底物间での八	物日奴		実績値	566	557	-
	標	算出根拠等	実績値/目標値		達成率(%)	87	86	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

事業費	H22	H23	
(人件費を除き繰越・補正を含む)	決質額	決質額	

全市民(4月1日現在)

	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
	歳出(千円) (A)	143	194	330
コス	<u>財</u> 受益者負担(使用料・負担金等)			
۲	源 内 その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
面	<mark>訳</mark> 一般財源	143	194	330
	コスト 受益者1件当たり(円) (A/B)	2	2	4

93,822

93,312

92,86

3	分析·評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			^ = # · · · · · · · · · · · · · · ·	o.k.p.k.p.t		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニース	ぶがある	В		の作品や日本画展大賞作品等の優れた 待している市民も多く、ある程度のニー		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			,			
			A (2)	事業主体を見直す	十余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	長である	Α	市所蔵の美術品の展覧 要性はある。	を食であることから、市が事業実施する必		
			C (0)	市が実施する必要	要性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	③ 活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	がある程度あがっている	В	臥龍桜の開花時期に合	わせた開催で、相乗効果が出ている。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない							
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		Α		ついては、日本画大賞展実行委員会メン 品力でコスト縮減を図った。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			展覧会の開催により、日本画展に関係する所蔵作品や有家の作品に触れられ、市民の芸術文化への関心が高まる			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	らった	Α				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点		
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ(隔年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

当事業は既に終了したが、今年の開花は例年に比べ1週間程度遅れたため、当初想定した開花時期と開催期間との整合がとれず開催前半の入場者数が少なかった。 今後は開花予想を工夫し開催期間を設定する。

縮小

廃止の検討

H24完了予定

0

維持·改善

拡大

・国指定天然記念物『臥龍桜』の満開時期に開催し、来場者へのPR方法の充実に努める。 ・臥龍桜の開花時期に併せて楽しんでいただける新たな展覧会の企画に努める。

	0	維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	± * *	^{독교} 타스 +따하ばㅜ\ ㅗ	ı /RE	5年とかれた2つの八草	₽ΛB!	* \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	۲1 / ±۱	中佐ナ汁体についてやショ	- 7 .v ਜ	

市美術展覧会、木版画ビエンナーレ(隔年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。

事業名 951		99	地域スポーツ振興事業 (全日本選抜ローラースキーみや大会)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421				
	会計	+	1	一般会計	_{7.} 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行事				
予	ア ※		9	教育費	特別予算の		В	一般予算の上乗せとして実施されている事業				
算			5	保健体育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業			
	目		1	体育総務費	''		D	その他事業				
	根拠計	画										
ī	市長公約]										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市内のクロスカントリー選手、一之宮地域の住民	対象者数	92,861 人						
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	Dか を図る。								
概要	事業の 実施手法 (手段)	実施手法・インターネット等を活用した全国PRでの参加選手募集。								

2 事業の推移・結果(Do)

全国に参加選手を募集し、147名の選手の応募があり、地元ボランティアの運営で7月30日~31日に大会を実施し H23の実績

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	出場者数		人	目標値	180	180	180
	動 指	山物石奴			実績値	181	147	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	101	82	-
	成	出場者数前年比率		%	目標値	100	100	100
	果指			70	実績値	97	81	-
	標	算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	97	81	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
		歳出(千円) (A	850	800	750
コス	74.3	受益者負担(使用料·負担金等)			
ロマン	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
	訳	一般財源	850	800	750
	٦,	スト 受益者1件当たり(円) (A/B	9	9	8

93,822

受益者 市内クロス選手、一之宮住民

3	分析·評価(Che			57 Jm.	# ##	-π /π·	== t== -t-=			
	評価項目	評価観点		評価	基 準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		┃ ・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	A (2)	ニーズが高い			- 末中の小中学生が会	加しておけ、ちて和床のニーブ	- ドセフ	
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・・市内の小中学生が参加しており、ある程度のニーズがあい全国から多数の参加選手があり、地元での宿泊、飲食、品の販売の向上につながっている。			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В		認のローラースキー大会として で、全国的に知名度が高いが である。		
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		走台月広の代刊が必安でのの。			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	iうか B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・大会の参加者も順調にる。	・大会の参加者も順調に推移しており、概ね成果は達成してい る。		
			C (0)	目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向い		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	B (1)	事業効率化・コスト総	減等がある程度図られている	В		ランティアで取り組んでいる。 金の応募に取り組んでいる。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	効果 A (2)	効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか		ある程度効果があった		В	・地域振興計画に位置付けられ、地域の一体感の醸成や地域活力の向上を図る観点から重要な事業である。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		あまり効果が見られなかった						
		숌計	5	/ 10	\rightarrow		100点換算	50	点	
(Γ,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

92,861

・事務局体制の移行と運営方法の検討。

		維持•改善		拡大	0	縮小	廃止の検討		H24完了予定
次年度の 実施方針 ^(担当課評価)	・自主	運営による事業の実施を検	討しな	がら予算の縮小を図ってい	√ 。				
		ı						1	

	維持·改善	拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	の自主的な活動とすべく、1 期間終了を見据え、市全体					

事	95 ⁻	199	地域スポーツ振興事業 (川上岳登山)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421
	会計	1	一般会計	, 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	J		- 位置付け 位置付けの		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	ている事業	
算			保健体育費	付算		O	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	1	体育総務費	" の	ν σ		その他事業	
	根拠計画		地域振興計画					
ī	市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

		誰を(対象)	全市民	対象者数		92,861	人
	目的			環境の重要性を認識	してもらう。		
村豆	既要	事業の 実施手法 (手段)	・川上岳登山事業への助成。 ・スポーツ推進員とNPO(環境保護、文化伝承等)とがタイアップし、実行	委員会形式で開催す	ే .		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績	市民に川上岳登山の応募を行い74た。	4名の参加	口応募者があっ	た。6月26日に事	業を計画したが雨 <i>の</i>	ため中止となっ
	指標名	単位	目標•実績	H22	H23	H24

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24					
	活	参加者数		人	目標値	60	60	60					
	活動指標	沙加 伯			実績値	60	0	-					
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	0	-					
	成田	参加者数前年比率		%	目標値	目標値 100		100					
	成果指標	沙加石 奴刑 千八	, T	70	実績値	95	0	-					
	標	算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	95	0	-					
					目標値								
成					実績値			-					
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-					
Ш					目標値								
					実績値			-					
		算出根拠等			達成率(%)			-					
					目標値								
					実績値			-					
		算出根拠等			達成率(%)			-					
					目標値								
					実績値			-					
		算出根拠等			達成率(%)			-					
				補	補足事項								

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額			
				歳出 (千円)	(A)	90	0	70	
コマ	2	受益	者負担(使用料	•負担金等)					
<u>}</u>	源内	<u>。</u> 「その他特定財源(国・世支出会・記信等)							
面	訳	一般	財源			90	0	70	
	٦2	ベト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	1	0	1	
	指標 受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	93,822	93,312	92,861			

3	<u>分析・評価(Che</u>		_		I			
	評価項目	評価観点		評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)		
		 ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い		・健康志向の高まりから、「登山」に対するニーズは依然として多		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニース	B (1)	ある程度のニーズがある	Α	「健康ぶ回の高まりから、「登山」」に対する――人は依然として3 し、 ・毎年、定員を超える応募がある。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い				
			A (2)	事業主体を見直す余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要である	В	・市民に気軽に登山の機会を提供し、登山によって健康づくりや 源流域の自然環境への愛護精神の啓発のため、市の負担金は 妥当であるが、今後の運営方法の検討が必要である。		
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
			A (2)	目的とする成果が十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果がある程度あがっている	А	・毎年、定員を超える応募があるので十分に達成している。		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		・実行委員会の自主運営を目指して、市負担金の改善を行って		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を車	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている	В	いる。 ・参加料の徴収により、市負担金の縮減に努めているので、受		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である		益者負担は適正である。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	D (1)	ある程度効果があった	А	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりや源 流域の自然環境への愛護精神の醸成のための効果がある。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見られなかった				
		合計	8	/ 10 — —		100点換算		
(Γ,	分析・評価で 明らかになった課題 「「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)							
	(参考) H23事業評価。 (二次評価)			的な引き下げを行う必要がある。 考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・実行委員による自主事業としての取組体制を確立。

		維持·改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 ^(担当課評価)	・実行	委員会の自主事業としての	展開が	必要である。				
			_					

	稚村"以晋	144)	利自ハン	発工の使制	口24元] アル
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)		の段階的な引き下げを行う シスを考慮し、縮小(廃止)				

闡	業名	951 枝 番	199	地域スポーツ振興事業 (モンデウススキー大会開催事業)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421
	会討	†	1	一般会計	, 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款		9	教育費	位置付ける		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	算 項 5		5	保健体育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		1	体育総務費	''		D	その他事業	
	根拠計	一画		地域振興計画					
	市長公約	þ							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民(ジュニア:7歳~15歳、シニア:40歳~)	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・市民(ジュニア、シニア)の体力維持、体力増進を図る。 ・モンデウススキー場への誘客促進を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・モンデウススキー大会開催事業への助成。 ・ジュニアスキー大会の開催。 ・シニアスキー大会の開催。		

2 事業の推移・結果(Do)

モンデウススキー大会実行委員会によって、2月5日にジュニアスキー大会(参加者252名)、2月22日にシニアスキー大会(参加者95名)が開催された。 H23の実績

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24			
活	ジュニアスキープ	上个关切老粉	人	目標値	300	300	300			
動指		八云多加有奴		実績値	208	252	-			
標	算出根拠等	ジュニアスキー大会参加者数		達成率(%)	69	84	-			
活動	シニアスキー大会	<u>수숙 m 구 **</u>	人	目標値	150	150	150			
動指	 	云 参加 有	_ ^	実績値	102	95	-			
標	算出根拠等	シニアスキー大会参加者数		達成率(%)	68	63	_			
成	<i>∷_</i> −マッ+	大会参加者数前年度比率	%	目標値	100.0	100.0	100.0			
成果指		、云岁加省	%0	実績値	87.0	121.0	-			
北 果 面	算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	87	121	-			
成	\$. - ▽▽+ _+	会参加者数前年度比率	%	目標値	100.0	100.0	100.0			
果 指) 	云参加有数削牛及几竿	90	実績値	78.0	93.0	-			
標	算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	78	93	-			
成	エンデムファナ	一場年間利用者数		目標値	45,000	45,000	45,000			
成果指	モンテリススキー	一场平间利用有致	人	実績値	43,195	45,072	-			
標	算出根拠等	実績値/目標値		達成率(%)	96	100	_			
				目標値						
				実績値			-			
	算出根拠等			達成率(%)			-			
	補足事項									

		(人件費を除き繰越・補正を含む)	決算額	決算額	予算額
		歳出(千円) (A)	1,000	900	800
コス	74.3	受益者負担(使用料·負担金等)			
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
面	訳	一般財源	1,000	900	800
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11	10	9

93,822

市民(ジュニア、シニア)

3	分析•評価(Che						1	
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		┃ ┃ ┃ ・事業実施に対する市民ニーズの傾向	よどう A ②	ニーズが高い				
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ B (1	ある程度のニース	゚ゕ゙ある	В	・スキー人口減少の中! から、ある程度のニース	においては、安定的な参加者があること ぐがあると判断できる。
		は減少していないか	C (0	ニーズが低い				
			A (2)	事業主体を見直す	- 余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないカ	В (1	一部見直しが必要	きである	В	デウススキー場への誘	付けされており、市民の健康づくりとモン 客促進に結び付くため市の負担金は妥 織体制等の検討が必要である。
			C (0)	市が実施する必要	長性が低い			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている	_		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は、	どうか B (1	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	·参加者は例年安定的	にあるので、概ね達成されている。
			C (0)	目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			実行委員会の自主運	営に向けて、市に頼らない運営方法、改
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	R (t)	事業効率化・コスト網	諸減等がある程度図られている	В	善を検討している。 ・スポンサーや協賛金を	を募り自主財源の確保に取り組んでい
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてし 要である	ないため大幅な見直しが必		る 。	
		・事業の実施が市の政策、施策の推進しがあったか	二効果 A (2)	効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか	B (I	ある程度効果があ	らった			付けされており、市民の生涯スポーツの -場への誘客に結び付き、スポーツ交流
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能が か	能した C ®	あまり効果が見ら	れなかった			
		合計	5	/ 10	\rightarrow		100点換算	50 点
(Γ,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題・実行委員会による自主運営の かに何が・新たなスポンサーや協賛金の						
	(参考) H23事業評価編 (二次評価)							

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

92,861

・実行委員会による自主運営の方法と組織体制の確立。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	地元密着の事業として、運営を地域

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H24完了予定

主体で行っているが、今後の継続には自主財源の更なる確保が必要である。

	維持•改善	拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	の自主的な活動とすべく、1 期間終了を見据え、市全体					

事	業名	313 枝 番	399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3413
	会詞	+	1	一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予				民生費	特別予算の	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	算 項			社会福祉費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		3	老人福祉費	" の		D	その他事業	
	根拠詞	+画							
市長公約 医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、 備します。				地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援	髪を万全にす	るた	め、3	虫居老人、要援護者等への地域福祉体	制を整

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	10,000 人		
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。				
概要 事業の 実施手法 高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。						

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成。

		 指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活				目標値	10,500	10,500	10,000
	活動指	連合長寿会会員数		人	実績値	10,405	9,796	-
	標	算出根拠等	-		達成率(%)	99	93	-
	活動	連合長寿会単位老人クラブ数		団体	目標値	150	150	143
	動指	建合長寿云単位名人グブノ剱		四14	実績値	150	143	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	95	-
	活動	連合長寿会加入率		%	目標値	42.0	43.0	40.0
成	動指標	建口技界云加入华		90	実績値	41.7	39.3	-
果面		算出根拠等 連合長寿会加	叩入者数/65歳以上人口]	達成率(%)	99	91	-
皿	活				目標値			
	動 指				実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	活				目標値			
	動指				実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成				目標値			
	果指標				実績値			-
	標	算出根拠等	·		達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	420	420	420
コマ	74.3	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>+</u>	源 内	の他特定財源(国・県支出金・起債等)			163	162	280
面	一般財源				257	258	140
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	729	753	755
	指標	受益者	一之宮区会員(4月1日現在)	(B)	576	558	556

3	分析·評価(Che	eck) 🔆	※平成23年度の実績を評価	<u> </u>																							
	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等))																
		•事業実	施に対する市民ニーズの傾向	〕はどう	A (2)	ニーズが高い			三齢者が住み慣れた ₩	2域で、他の高齢者や住身	ことなぶたはた																
1	市民ニーズの確認		勢の変化など時の経過に伴い ていないか	ヽニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		を送るための活動として、																	
		16/19, 90			C (0)	ニーズが低い																					
	市が実施する。市が東業主体である。				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人																		
2)		業主体であることは妥当か 民間の活動と競合していない	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		進する目的とする事業を行 実情に応じた体制整備に																	
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		72076																		
	W-11-4-0	5	+7-EB (\$4-1\$ 71.		A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		+	*	3 mm																
3	③ 活動内容の 有効性 ・ 日的とする成果があがっているか ・ 成果指標などの目標値の達成状況はどうか			はどうか	B (1)		ある程度あがっている	В	老人グラブ加入者は、派 や活動の見直しに取り約	載少傾向であるため、役員 組んでいる。	(等により、組織																
L					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し																				
	+1 < >+	•委託化	最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実 医手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽 域する余地はないか 受益者負担は適正か		A (2)	事業効率化・コスト組	宿減等の改善の余地はない		ナズルピモキヘキカロ		よ四の奴隶一																
4	執行方法 の効率性	·国等の			B (1)		減等がある程度図られている	Α	支所地域長寿会事務局の人件費補助として、最小限の経費 ある。																		
L					C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必																				
	Th 200 Tr 1 =	があった			A (2) 効果があった			E = ^ 너됩니 + + + + - + 7	- 1 - 1 11 主要する時間	►																	
(5)	政策面における効果	上で有効			効に機能したか		に機能したか		効に機能したか		効に機能したか		可効に機能したか		効に機能したか		りに機能したか				B (1)	ある程度効果があ	ots	В	長寿会活動に参加する り予防が図れた。	ることにより、高齢者の健康増進と閉	
L		か	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		C (0)	あまり効果が見られ	れなかった			T																	
		合詞	i †		8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点																
([,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) 新規加入者が少なく、連合長寿会: の充実と活発な取り組みが必要で					位クラブの減が課是	夏となっている。健康で生き	がいを持	って生活するために、地	域とのつながりも深めなれ	がら、今後一層																
	(参考) H23事業評価	法里	平成22年度事業評価におし 指摘をしているところであるが																								

H23事業評価結果 (二次評価)

指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地域もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方にについて検討する必要がある。

縮小

廃止の検討

H24完了予定

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

0

本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・老人クラブ活動費補助金(31336事業)との一本化を図る。

維持·改善

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	ŧ	H24完了予	▶定
二次評価			 *	 ****	 			"

・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化に ついては、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。

	事章	業名	218	399	巨樹巨木保護管理事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線		
			枝 番			1_ = WK				3431		
	会計 1				一般会計	_{7.} 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
	予款			2	総務費	位置付けの	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
拿	算 項			1	総務管理費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目			18	環境政策費	''		D	その他事業			
		根拠討	+画		地域振興計画							
	市長公約			1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な観	見光資	資源を	を新たな観光資源として積極的に活用し	ます		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・恵まれた自然を守り、生かすという意識の高揚を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・地域に残る巨樹・巨木の保護・保全活動を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

・防護柵修繕整備(宮の大イチイ)
・通路などの草刈り(ネズコの大木、岩岳のイチイ、谷桶のモミ)
・セラミック炭の散布(ネズコの大木、岩岳のイチイ、谷桶のモミ)

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24	
	活	セラミック炭の散	左 同粉		目標値	1	1		1
	活動指標	ピノミソン灰の飲	刊回奴	Щ	実績値	1	1	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
	活	草刈りの回数			目標値	1	1		1
	活動指	早刈りの凹数		Щ	実績値	1	1	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
	成	位山登山者数		人	目標値	1,800	1,900		2,000
ᆄ	成果指標	位山豆山有致			実績値	1,750	2,270	-	
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	97	119	-	
血					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

・「いのちの森づくり」プロジェクトにより周辺樹木との共生を図ることが必要との指導を受けている

			(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含	含む)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	287	269	370
コマ	74.3	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金・起債等)				
面	訳 .	一般	財源			287	269	370
	コス	۲١	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	3	3	4
	指	標	受益者	全市民	(B)	93,822	93,312	92,861

3 7	分析·評価(Che 評価項目	ck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価:	甘淮	評価	部/ 市内2	容の説明(評価の理由等)			
	計逥垻日	計測稅从		a+1jiii;	本年	計Ⅲ	計順內	4の説明(計画の理由寺)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い							
(1)	市民ニーズ	か	B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙゙゙ゕ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ゕ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	В	・位山・川上丘の登山去	音を中心にある程度ニーズがある			
U	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	D (1)	める住及の一人	73 - 63 - 63			さればにめる住及一 スかめる			
		16/19/9 0 0 0 0 0 0 13	C (0)	ニーズが低い							
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない			:#4 C +++*! -#			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	親しむむ機会の創出や	巨木を市が保護・保全することは、 新たな観光スポットの創出を図る。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		妥当である				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている						
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	森づくり」の考え方に即	全を行う取り組みについては、「い して、他の樹木と共生を図りながら			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		に実施している				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない			、限の経費で取り組んでおり、適正で る			
4	執行方法 の効率性	*安託になど事業の効率に・有力にに同じ美施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	・事業コストは、必要最る				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必	 &					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった							
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があった		В	・地域に残る貴重な巨樹・巨木を保護・保全することに全への意識の高揚や新たな自然観察の場の提供なる方がに機能した。				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (i) あまり効果が見られなかった			有効に機能した					
		숌計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点		
<u>(</u> [Д	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)・市民に巨樹・巨木の場所を知ってもらい、現地に足を運んでいただけよう環境整備を行う必要がある。										
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・自然環境の保全についての市の関わり方について整理する必要がある										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 ・「いのちの森づくり」の考え方に即した保護・保全を引き続き、実施する

)	稚村 以告		114.人		利日へ」、	完正の役割	口24元 1 7及
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・ 「いの	うちの森づくり」の考え方にほ	即した保	・ 保護・保全を引き続き、実施	する			

	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	・観光資	資源としての活用の観点か	ら、市	内外への周知・PRについて	検討す	る必要がある。		

:	事業名			99	自然生態系保全事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431
	45	会計		1	一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
- }	款		1 一般会計 A 合併前から実施されているイロックを表現されている。 A 合併前から実施されているイロックを表現されている。 A 合作を表現されているイロックを表現されているイロックを表現されているイロックを表現されているイロックを表現されているイロックを表現されている。まためではないのではないのではないではなった。 A 合作を表現されているではないのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない				一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業		
第		項		1	総務管理費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
		目		18	環境政策費	" o		D	その他事業	
	根据	拠計画	Ī		地域振興計画					
	市長公約			1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な額	見光資	資源を	F新たな観光資源として積極的に活用し	ます

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・恵まれた自然を守り、新たな観光スポットとして創出する							
概要 事業の 実施手法 (手段) ・自然保護団体との連携のもと地域に残る桜やバイカモの保護・保存活動を行う ・桜やバイカモを守る活動を行う団体に対し補助金を交付する									

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

・桜のテング巣病除去、道路障害枝・雪折れ枝の伐採 ・河川清掃、バイカモの移植

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24			
	活	自然保護団体数	,	団体	目標値	2	2	2			
	動 指	日然体設凹体效	•	四种	実績値	2	2	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-			
	活	型の促業, 促令:	舌動参加者数(延べ人数)	人	目標値	80	70	70			
	動 指	依の休暖・休土/	古野参加有数(進へ入数)		実績値	80	70	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-			
	活	バノカエの収益。	保全活動参加者数(延べ人数)	人	目標値	62	56	56			
时	動 指	ハイカモの休暖・	休主/山割参加有数(延へ入数)	_	実績値	62	56	-			
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-			
血	成	臥龍桜・桜まつり	1 7 担 字粉	人	目標値	40,000	40,000	40,000			
	果 指	成態な なみ フッ	八场日奴		実績値	50,000	35,000	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	125	88	-			
					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			-			
					目標値						
				実績値			-				
		算出根拠等			達成率(%)			-			
	補足事項										

・桜やバイカモの開花状況について、問合せが複数ある

			(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む	3)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	110	110	130
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金・起債等)				
面	訳					110	110	130
	تر =	スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	1	1	1
	指	標 受益者 全市民		(B)	93,822	93,312	92,861	

	評価項目	評価観点	評価基準				評価内容	容の説明(評価の理由等)			
			A (2)	ニーズが高い							
(T)	1,1.24	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		している活動については、各種報道に 、地域を中心に保護・保全活動が認知。			
	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			れていることからある程	度ニーズがある			
			A (2)	事業主体を見直す							
2	市が実施する	・市が事業主体であることは妥当か	B (1)	一部見直しが必要		А		。 诶・バイカモを保護・保全することは、新 ○景観の創出になることから妥当である			
	必要性	・国・県・民間の活動と競合していないか	C (0)	市が実施する必要				市指定の文化財となっている			
			A (2)		十分にあがっている						
3	活動内容の	・目的とする成果があがっているか	B (1)		ある程度あがっている	В	めることから目的とする	間中に地域を訪れる方がある程度見 成果がある程度あがっている			
•	有効性	・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	C (0)	目的とする成果があ	がってないため大幅な見直し	5	・バイカモについては、 いる	豪雨の影響などにより個体数が減少し			
		・最小限のコストで事業を実施できているか	A (2)	が必要である	縮減等の改善の余地はない						
4)	の効率性	・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか	B (1)		減等がある程度図られている	Α		然保護団体に補助金を交付し必要最 おり、適正である			
•		・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい	ないため大幅な見直しが必	^	小限の経費で取り組ん	でおり、適正である			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果	A (2)	要である 効果があった							
(5)	政策面に	があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る	B (1)	ある程度効果があ	ant-	Α	の活用など効果がある	こよる景観保全、地域振興並びに観光資源とし 見がある			
٥	おける効果	上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら		^	・市指定の文化財であるバイカモを保護・保全することは、貴な自然資源を後世に残す意味でも効果がある				
		מין		のより効果が見ら	אניימנטיי			T			
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点			
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)											
(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・様々な自然環境保全に取り組む地域団体等があるなかで、特定の団体(自然環境)に支援する考え方を整理する必要がある ・価値を検証する必要がある											

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・天然記念物(希少動植物)生態環境調査事業の中でバイカモの生態系調査を実施し、新たな管理手法を検討する

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

維持·改善

・桜の保護・保全については、継続して適正管理を実施する
・バイカモについては、新たな管理手法に基づいて個体数を増やすような管理を行う

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	・自然∃	環境の保護・保存に取り組	む市民	団体等に対する支援のあり	方につ	いて整理する必要がある。	,		

縮小

廃止の検討

事	業名	611 枝 番	199	位山交流促進センター管理事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431	
	会記	_	1	一般会計	A 合併前から実施されているイベント・行					
予	予 算 項		6	商工費	股会計 A 合併前から実施され 工費 O B 一般予算の上乗せる 工費 C 終期を定めて実施すり 工作開表 D その他事業				る事業	
算			1	商工費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		1	商工振興費	" の		D	その他事業		
	根拠詞		地域振興計画							
ī	市長公約			商工業・地場産業をさらに発展させます ・将来の地域経済を支える持続的な振興を図るため、高速交通網や広大な市域の特性を活かした新しい産業育成組み、新規常雇用者の増加を目指します						

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	63,000 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)			
概要	事業の 実施手法 (手段)	・道の駅がもつ販売機能の強化と活用を行う ・施設の管理は、財団法人 位山ふれあいの里に委託する		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績 ・道の駅の附帯施設として位山交流センターの管理運営を実施する

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24						
	活	施設営業日数		В	目標値	325	325	325						
	活動指標	心 政五未口效			実績値	325	325	-						
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-						
	成	施設利用者数		ı	目標値	63,000	63,000	63,000						
	果指標	他 政利用有数		人	実績値	58,408	61,346	-						
	標	算出根拠等			達成率(%)	93	97	-						
					目標値									
ᆄ					実績値			-						
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-						
血					目標値									
					実績値			-						
		算出根拠等			達成率(%)			-						
					目標値									
					実績値			-						
		算出根拠等	<u> </u>		達成率(%)			-						
					目標値									
					実績値			-						
		算出根拠等			達成率(%)			-						
				補	足事項									

・源流の森づくりやグリーンツーリズムなど各種イベントが開催され誘客を図っている

			(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む))	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額			
				歳出 (千円)	(A)	8,000	8,000	8,000			
コマ		受益	者負担(使用料	•負担金等)							
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金・起債等)							
面	訳	一般	財源			8,000	8,000	8,000			
	ت =	スト	Cト 受益者1件当たり(円) (A			137	130	127			
	指	標	受益者	施設利用者	(B)	58,408	61,346	63,000			

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価	i							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向		A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズの確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い は減少していないか	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・・冬季にはニーズが高く、それ以外はニーズが低くくなってが、全体としてはある程度ニーズがある		る
		14 11% D C C V '4 C V '13'		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないが	b)	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・道の駅の附帯施設とし	して市が適正に管理する必要がある	
				C (0)	市が実施する必要	性が低い				
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				_
3	③ 活動内容の ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど			B (1)		ある程度あがっている	В	・施設利用者は増加しており、目標達成率が高いことから、 程度成果が上がっている		
				C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である						
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向ける 数名方法			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		宿滅等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負減する余地はないか	担を軽	B (1)		減等がある程度図られている	В	・事業コスト縮減のため	、節電など対策を実施している	
		・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
	71. Mr 1	・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか		A (2) 効果があった				・グリーンツーリズムや源流の森づくりなど他事業との連携により、施設利用者が増加したが、収支は赤字のため経営などの検討が必要である		ĩĽ
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機		B (1) ある程度効果があった		В	女善			
		<i>h</i>		C (0)	あまり効果が見られ	れなかった			T	
		合計	6	6	/ 10	\rightarrow		100点換算	60 A	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)		が増してお	り、他の	スキー場とも関連し	た今後のあり方などについ	て検討す	ける必要がある		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・更なる集客を目指し、施設整備や環境整備を実施する

維持·改善

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・道の駅の附帯施設として、適正に運営するとともに、四季を通して集客を図れるよう経営改善を行う

拡大

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	·老朽·	化や採算面から厳しさが増	しており	り、他のスキー場とも関連し	た今後	そのあり方などについて検討	する必	多要がある。	

縮小

廃止の検討

事	業名	721 枝 番	199	地域道路橋りょう管理振興事業 (市道未登記用地測量事業)	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431			
	会詞	+	1	一般会計	, 特	A 合併前から実施されているイベント・						
予	款		7	土木費	位置付け	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている事業				
算	項		2	道路橋りょう費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業				
	目		1	道路橋りょう総務費	" の		D	その他事業				
	根拠計画											
ī	市長公糸	勺 										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人			
巨的		・未登記路線を整理し、市道の適正な管理を行う					
棋要	事業の 実施手法 (手段)	・市道未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山 権移転登記を行う					

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績・未登記路線の確定測量及び分筆測量

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	未登記完了路線	3.光7	路線	目標値	1	1	1
	活動指標	小豆配儿] 四柳	(3)	此口的水	実績値	0	0	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	0	0	-
	成	登記完了率		%	目標値	67	75	83
	成果指標	豆配儿 1 十		/0	実績値	58	58	-
	標	算出根拠等	登記完了路線数/未登記路線数		達成率(%)	87	77	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
囬					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

・整理困難な案件が残っている

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	0	498	500
コマ	74.3	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>}</u>	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面	訳	一般財源			0	498	500	
	ت = 7	スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	5	5
	指	標		全市民	(B)	93 822	93 312	92 861

	評価項目	評価観点		評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	*事未夫他に対する市氏――スの傾向はとうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・未登記路線を整理する えることからニーズは高	ることによって、市道の適正な管理が行 い		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・市が管理すべき施設のため、事業主体を見直す余地はな			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・地権者の相続問題や	寄付に対して理解が得られない路線が		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В		を達成していない 旨を十分に説明し、相続問題の解消や習		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		への理解が得られるよう交渉が必要である			
4		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている						
	の効率性・	施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)			Α	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正でる			
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった ある程度効果があった						
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)			Α	・生活に身近な道路を適正に管理するためには、未登記路線解消については積極的に取り組むべき事業である			
		か	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった					
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>á</u>		
(Гд	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・H26までに重要路線の未登記処理を解消できるよう取り組んでいく必要がある									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・相続問題の早期解消や寄付に対して理解が得られるよう交渉する

	0	維持•改善		拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	▪計画的	的に未登記路線の解消に関	取り組ん	っでいく			

		維持·改善	0	拡大		縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•平成2	26年度までに重要路線のま	ト登記が	処理を完了できるよう積極的	りに取り	別組んでいく必要がある。		

事	業名	745 枝 番	599	地域景観保全振興事業 (桜の里づくり)	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431
	会記	†	1	一般会計	特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款	款 7 土木費		土木費	位別置る	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	算 項		4	都市計画費	位置付け かんしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	C 終期を定めて実施する事業・単		終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		5	景観保全総務費				その他事業	
	根拠詞	十画		地域振興計画					
ī	市長公糸	必	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な観	見光資	資源を	·新たな観光資源として積極的に活用し	ます

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・桜を基調とする地域個性の創出として桜の舞う地域づくりを行う		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・桜を適正に管理するために補植、防除及び施肥を実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績 ・桜の防除・施肥・枝打ちの実施

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	桜の維持管理本	Жπ	本	目標値	1,000	1,000	1,000
	動 指	後の維持官理本	致	本	実績値	1,000	1,000	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成	臥龍桜・桜まつり	1 7 担 字粉	数	目標値	40,000	40,000	40,000
	果指	成態な なん フッ	八场日奴	**	実績値	50,000	35,000	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	125	88	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

ī		

				(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含	t)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
l					歳出 (千円)	(A)	1,069	1,089	2,600
l	コス	財源内	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
l	<u>}</u>		その	他特定財源(国	•県支出金•起債等)				
l	面	訳	一般財源			1,069	1,089	2,600	
ı			△ 1.				11	12	28
I		指	^{這標}		(B)	93,822	93,312	92,861	

3	分析・評価(Che 評価項目	eck) 🔆 भ	平成23年度の実績を評価 評価観点			評価	# *	評価	5亚/平内 5	容の説明(評価の理由等)			
	評価項目		評価観点				基 华	音半1四	評個內有	谷の説明(評価の理田等)			
		・事業実施	に対する市民ニーズの傾向は		A (2)	ニーズが高い							
1	市民ニーズ の確認		の変化など時の経過に伴い二	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		桜が植樹されており、桜が舞う美しい農 などが訪れていることからニーズが高い			
		は減少して	いないか		C (0)	ニーズが低い							
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない		lat a transition				
2	市が実施する 必要性		主体であることは妥当か 間の活動と競合していないか		B (1)	一部見直しが必要	である	В	之宮桜を守る会」におし	・市が行っているほか自然保護団体「一 いても実施されていることから、効率的・ う一部見直しが必要である			
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		MX111-11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1				
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている						
3	活動内容の 有効性・成果指標などの目標値の達成状況はどうか			ごうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・桜の管理については道 除に関して課題がある	適正に実施したが、毛虫が多く発生し防			
			NIEW CONTRACTOR NAME OF THE			目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し						
			・ 小限のコストで事業を実施できているか 託化など事業の効率化・省力化に向け実		A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり、適正であ				
4	執行方法 の効率性	施手法に改・国等の補	去に改善の余地はないか の補助金の活用など市の財政負担を軽		x善の余地はないか 助金の活用など市の財政負担を軽		B (1)	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	る ・管理内容については、「一之宮桜を守る会」と協議しながら、 なるコスト可能か否か検討する必要がある		
		減する余地 ・受益者負	はないか 担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				なるコスト可能か否か植	検討する必要がある			
		・事業の実施があったか	業の実施が市の政策、施策の推進に効果 ちったか 合計画及び主要計画等の目標達成を図る で有効に機能したか 長公約の実現を図る上で有効に機能した		A (2)	効果があった							
(5)	政策面に おける効果	・総合計画 上で有効に			幾能したか		B (1) ある程度効果があった		oots	Α	・桜の里づくりによる景観保全、地域振興並びに観光資源と の活用など効果がある		
		か			C (0)	あまり効果が見られなかった							
		合計		7	1	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点			
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が ・	・ 毛虫の防除に関して、新たな管 桜の管理について、「一之宮桜				する必要がある						
	(参考) H23事業評価 (二次評価)	た に に に に に に に に に に に に に	臥龍桜を中心とした「桜の里づ Eな管理手法を検討する必要か		一之宮坎	也域の地域振興とな	つているが、事業の継続に	ついては	他の地域及び類似事業	とのバランスを考えるとともに今後の適			

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

0

・桜の防除について、有識者の意見を聞きながら新たな管理手法を一部試験的に実施し効果を検証する・桜の枝打ち、整姿については、「一之宮桜を守る会」と協議しながら実施する。

拡大

維持·改善 次年度の 実施方針 (担当課評価) ・桜の新たな管理手法を取り入れ、「一之宮桜を守る会」との連携のもと、桜を適正に管理する

0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定	

縮小

廃止の検討

H24完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

類似事業との整理とともに、他の地域とのバランスを考慮し、今後の適正な管理手法を検討する必要がある。

事	業名	941 枝 番	99	花いっぱい運動事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3413
	会計 1			一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款		9 教育費		位置付けの	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
算	算 項 4			社会教育費	付算	算 C 終期を定めて実施		終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		1	教育総務費 プログラス			D	その他事業	
	根拠計	画		地域振興計画					
市長公約			4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地 算枠を確保します。	はを築くたと	か、地	b域 <i>0</i>)自主的なコミュニティ活動や環境整備	事業の予

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域住民が花壇づくりに参加することで、地域コミュニティの醸成を図る・花づくりを通して、美しい地域づくりに住民みんなで取り組み、地域の彩		な心を育成する。
概要	事業の 実施手法 (手段)			

2 事業の推移・結果(Do)

コスト 受益者1件当たり(円)

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活動指標	花苗配付数		株	目標値	13,000	13,000	13,000
		16田町刊数		174	実績値	13,620	12,880	-
		算出根拠等			達成率(%)	105	99	-
	成	花壇箇所数		答記	目標値	37	37	37
	成果指	化垣固別数		箇所	実績値	37	37	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成	花壇コンクール原	广节业		目標値	33	33	33
륪	成果指	化塩コンソールル	心 寿奴	団体	実績値	33	33	-
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を除き繰越・補正を含む)	決算額	決算額	予算額
		歳出(千円) (A)	360	383	470
コス	24.3	受益者負担(使用料·負担金等)			
+	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
面	訳	一般財源	360	383	470

一之宮地域住民(4月1日現在) (B)

136

2,641

145

2,633

179

2,625

	分析・評価(Che 評価項目	eck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点			評価。	其進	評価	評価内 容	Sの説明(評価の理由等)				
F	п ш-х п	II I IIM POEVII		A (2)	ニーズが高い		ит пш	11 11117 7	1 0 > D(0) (1				
1	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向! か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い.		B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α			定着し			
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い								
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・花いっぱい海動事業は	ナ 市長公約された「地域の白主	的たコ			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	þγ	B (1)	一部見直しが必要	である	В	地域の班社教および子ども会など小規模単位のコミュニテ 活発化になっている。 22年度実施時、20種類あった花品種・色を23年度から10種 こしぼった。同時に納品の際、すぐに注文団体へ渡せるよう 本ごとに花品種・色・数をセットしてもらうよう契約した。また、 苗納品業者は障害者支援施設吉城山ゆり園であり、障害者 业にも役立っており、民間業者より安価である。 地域振興計画に位置付けられ、市長公約にもある「地域の 主的なコミュニティ活動や環境整備事業」の面で効果があった。 100点換算 90 点	、市民憲				
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		る事業である。					
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている							
3	活動内容の 有効性				目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・地域の班社教および子活発化になっている。	そども会など小規模単位のコミュ	ニティの			
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し							
		・最小限のコストで事業を実施できてい ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない							
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負		B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	体ごとに花品種・色・数な	会のニーズは高い。 、市長公約された「地域の自主的なコ 講事業の予算枠確保」にあたり、市民港であり、また高山市全域で行われてい をあり、また高山市全域で行われてい をも会など小規模単位のコミュニティの あった花品種・色を23年度から10種類 巨 とも会など小規模単位のコミュニティの がいたでは、注文団体へ渡せるよう、花 緩施設吉城山ゆり園であり、障害者福 引業者より安価である。 けられ、市長公約にもある「地域の自 り環境整備事業」の面で効果があった。				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		祉にも役立っており、民間業者より安価である。						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった								
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	ote	Α						
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能が か	能した	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった							
		合計		9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点			
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 A」評価にするために何が 必要なのかを記入)												
	(参考)												

4 今後の方向性(Action)

H23事業評価結果 (二次評価)

課題等に対する 今年度の対応状況 ・今年度は「ぎふ清流国体」があり、選手団等を「お客様」として快く迎えるため、高山地区での開催時期に合わせて、花が満開になるよう指導した。・事業存続に向け、地域振興特別予算終了後も一般予算化を検討する。

成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。

・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H24完了予定 次年度の 実施方針 (担当課評価)

・花いっぱい運動推進のため、継続していく。・各支所地域とのバランスの考慮も必要だが、肥料等一部予算縮小の検討可能。

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H24完了予定 (企画課・総務課・財政課評価) 「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ·特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。

事	業名	946 枝 番	699	地域文化振興事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421	
	会討	†	1	一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款		9	教育費	位置 付け	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	として実施されている事業	
算	項		4	社会教育費	終期を定めて実施する事業・単年度事	を定めて実施する事業・単年度事業				
	目		6	文化振興費	けの	D その他事業				
	根拠討	+画		地域振興計画						
	市長公約			伝統文化を守り、次代へ継承します ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがい らに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と 確保します。	や、若者の神継承、新たれ	社会を	参加· 析文(へのやる気づくりにもつながる芸術文化 化の創出のための予算を総予算枠の1	に活動をさ %以上	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・優れた文化に触れる機会を提供する。 ・一之宮地域の住民の文化教養の向上を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・地域文化振興事業への助成。 ・著名人を講師として招へいし、講演会等を開催する。		

2 事業の推移・結果(Do)

ー之宮町社会教育推進運営委員会が9月23日にフリーアナウンサー福澤朗氏を招いて講演会を行った。(参加者2 20人) H23の実績

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	講演会開催回数	,		目標値	1	1	1
	活動指標	两.供 云 用 唯 凹 效	•	Щ	実績値	1	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成	講演会入場者数	,	人	目標値	350	300	300
	成果指	神供云八物 日奴	•		実績値	300	220	-
	標	算出根拠等	入場者数		達成率(%)	86	73	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費を	事業費 - 除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	800	1,000	800
コス	74.3	者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国・	県支出金·起債等)				
面		財源			800	1,000	800
	-1VI.	受益者1件当たり	り(円)	(A/B)	303	380	305
	指標	受益者	一之宮地域住民(4月1日現在)	(B)	2,641	2,633	2,625

3	分析·評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			人园的广切名库《京	、並ね ナ=# 冷まし マ47/41 マルフー	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・全国的に知名度の高い著名人を講演者として招待して とで、会場には多数の来場者もあり、地域住民の文化で する。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・市が助成することで、ī 上につながる。	市民の生きがいや社会参加への意識向	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・会場の座席を埋める多 あったので、概ね達成し	る数の参加者があり、講演会は好評で している。	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			奴悪にはいれる担似す	・独加ナフトに、丹海本児に取りのファ					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	図られている B いる。		・徴収するなど、財源確保に取り組んで	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			・地域振興計画に位置付けられているとともに、市民の心の		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があ	ot:	Α		を醸し出す、市長公約の達成に効果があ	
		*中長公利の美現を凶る上で有効に機能したか	C (i) あまり効果が見られなかった			ින ං			
		合計	6	/ 10	\rightarrow		100点換算	60 ^点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が ・住民のニーズや事業目的に合う講演	寅者の選定	きを行うとともに、今	後の事業の在り方の検討も	必要であ	ò ō .		
	(参考) H23事業評価紀 (二次評価)	・全市的なバランスのなかから、地域 ・特例期間終了を見据え、市全体のバ				や事業費	規模などについて、検討	が必要である。	

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・住民のニーズや事業目的に合う講演者の選定を行いながら、今後の事業の在り方を検討。

次年度の 実施方針 (担当課評価) ・他地域で開催されている同種の事業と全市的な調整が必要である。			維持·改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	実施方針	・他地址	域で開催されている同種の	事業と	全市的な調整が必要である	5.			

	維持·改善	拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	期間終了を見据え、市全体 芸術鑑賞事業との関係の雪					

事	業名	947 枝 番	799	地域伝統芸能保存会助成事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421	
	会記		1	一般会計	4.特		Α	合併前から実施されているイベント・名	亍事	
予	款		9	教育費	特別予算 の	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
算	項		4	社会教育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度	事業	
	目		7	文化財費	′′	D その他事業				
	根拠詞	十画		地域振興計画						
市長公約		ې ا	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・地域の伝統文化を守る活動や、新しい高山の文化 存振興ファンド)を創設します。	を創造して	いく記	5動を	を支援するため、芸術文化夢基金(芸術	· 所文化保	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域の伝統芸能(闘鶏楽)の保存と伝承を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・地域伝統芸能保存会活動への助成。		

2 事業の推移・結果(Do)

一之宮子ども会闘鶏楽伝承会(5月2日例祭参加)の活動費用に高山市文化財等保護事業補助金を助成した。

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	伝承回数(練習	ナ、トブ(石)(タ) (目標値	5	5	5
	動 指	14年四数(裸首	あよび例宗)	Ш	実績値	5	5	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成日	ーク宮地域のコ	そどもの参加率	%	目標値	70	70	70
	成 果 指	之占地域())	ともの参加平	70	実績値	62	65	-
	標	算出根拠等 参加者数/一之宮小5~中3男子			達成率(%)	89	93	-
					目標値			
成					実績値			_
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
山					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			_
		算出根拠等		達成率(%)			_	
					目標値			
					実績値			_
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

_			1 11 11				
		(人件費を	事業費 に除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	45	45	45
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		以財源			45	45	45
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	17	17	17
	指標	受益者	一之宮地域住民(4月1日現在)	(B)	2,641	2,633	2,625

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い			の伝統芸能が次世代に	生まで5年間、闘鶏楽を習うことで地域 二継承され、地域文化の保護育成にな
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	B (1)	ある程度のニーズ	` がある	Α		D町民が祭礼に関わっており、地域の で行事が守られている。市内外からの
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			学客も多くニーズは高い	
			A (2)	事業主体を見直す	- 余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	きである	Α	・無形文化財の保護育 助金として補助すること	成のため高山市文化財等保護事業補 こが妥当である。
			C (0)	市が実施する必要	性が低い			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・子ども会の活動として、地域の伝統行事に参加する意識が高まり、成果は十分達成されている。	
	・暑小限のコストで事業を実施できている。		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直 しが必要である				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負担を 減する余地はないか	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		Α	・少額の経費(補助)で ているので、特に課題(、伝統芸能を保存する目的が達成され まない。
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
	TL 65 T	・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか		効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能し	B (1)	ある程度効果があ	int	Α		付けられているとともに、伝統芸能を [・] 「長公約の達成に結び付いている。
		þγ	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった			Г
		合計	10	/ 10	\rightarrow		100点換算	100 🛦
(ГД	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)			る必要がある。				
(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・特例期間終了を見据え、市全体の				を考慮し、縮小(廃止	.)を検討する必要がある。			

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・伝統芸能保存の観点から、引き続き補助していく。

0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価) ・伝統芸能例	保存の観点から、引き続き	・補助していく。			

	O	稚持"収書		孤天		稲小	廃止の検討	H24元「予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•特例:	期間終了を見据え、市全体	kのバラ	ランスを考慮し、縮小(廃止)を検言	する必要がある。		

事	業名	94 ⁷ 枝 番	799	- 国指定天然記念物「臥龍桜」維持管理事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421		
	会訓	+	1	一般会計	特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
予	ph -			教育費	位置付け の	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業		
算	算 項		4	社会教育費			С	終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目		7	文化財費	" の		D	その他事業			
	根拠詞	+画		地域振興計画							
市長公約			9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価 ために、美しいふるさと認証制度を創設します。	値のある有意	形無	形の	伝統文化や文化財などの資源を保存え	舌用する		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・国指定天然記念物「臥龍のサクラ」の保護育成を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・岐阜大学林教授等による、国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成指・臥龍桜周辺の草刈、施肥の実施。	導。	

2 事業の推移・結果(Do)

国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成のため、草刈・施肥を行った。学識経験者の指導を受け支柱交換を行った。

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	岐阜大学林教授等による現地診断回数		目標値	1	1	1
	動指	収早八子杯教技寺による現地診断回数	ш	実績値	1	2	-
	指標	算出根拠等		達成率(%)	100	200	-
	活	草刈・施肥の回数		目標値	2	2	2
	動指	平河·旭ルの自数	Е	実績値	3	3	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	150	150	-
	成	以龍桜見学者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
成	果指	以用的文元十七 奴		実績値	50,000	35,000	-
成果面	標	算出根拠等 実績値/目標値		達成率(%)	125	88	-
Ш				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
			補	足事項			

事業費	H22	H23	Г
(人件費を除き繰越・補正を含む)	決質額	決 質額	

受益者 全市民(4月1日現在)

H24 予算額 650 財 受益者負担(使用料・負担金等) その他特定財源(国・県支出金・起債等) 内 その他特別 一般財源 コスト 受益者1件当たり(円) (A/B)

93,822

93,312

92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう		ニーズが高い				市民のみならず、全国各地から多くの観 「ることから、保護に対するニーズは非常	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニース	で B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	に高い。	ることがら、休暖に対する――へは非常 姿を後世に残す事は、市民の財産として	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			のニーズが非常に高い		
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	市所有の国指定天然記 務である。	己念物を維持管理することは所有者の義	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α		射勢も順調であり、毎年素晴らしい開花を Dで、成果は十分に上がっている。	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		 ・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない				で行い、大規模な保護事業は国庫補助	
4	執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽			事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	換を国庫補助事業で行	から指導を受けている。23年度は支柱交 ∶い財政負担を軽減した。 必要最小限の経費で事業を実施してい	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		る。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			・地域振興計画に位置付けられているとともに、市長な		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	っった	Α	財などの資源を保存活	売け、歴史的、社会的に価値のある文化 用する」を達成する効果が上がってい	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か		あまり効果が見ら	れなかった		১		
		솜計	10	/ 10	\rightarrow		100点換算	100 点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)			.νζ _°					
	(参考) H23事業評価級 (二次評価)		を実施してい	\\.					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。

次年度の 実施方針 (担当課評価)

維持·改善

・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。 ・大規模な保護事業が必要になった場合は、国と連携し計画的な事業実施が必要である。

拡大

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当)	課評価に同じ)				

縮小

廃止の検討

事	94 接名 核 番	799	位山道維持管理事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3412	
	会計		一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行事		
予	Art .		教育費	位置付け けい	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	せとして実施されている事業	
算	項	4	社会教育費	付算 けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目		文化財費	財費 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
	根拠計画		地域振興計画						
ī	市長公約		伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価 ために、美しいふるさと認証制度を創設します。	値のある有	形無	形の	伝統文化や文化財などの資源を保存活	舌用する	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・奈良時代からの官道遺構「位山道」(市指定文化財)の維持管理を図る・高山固有の文化を後世に継承する。	00		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・位山道の維持管理(草刈)の実施。 ・位山道の修繕。			

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績 位山道の草刈を2回実施

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	草刈回数			目標値	3	3	3
	活動指	平列四奴		ш	実績値	2	2	-
	標	算出根拠等	回数		達成率(%)	67	67	-
	成	官道を活用した。	イベント同数	%	目標値	2	3	3
	成果指標	日垣と沿川した	「「」」「国奴	/0	実績値	2	3	-
	標	<mark>算出根拠等</mark> 回数			達成率(%)	100	100	-
					目標値			
ᆄ					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	<mark>≾根拠等</mark>		達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	45	66	600
コス		受益者負担(使用料・負担金等)						
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面	訳				45	66	600	
	ت =	∼ 1.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	1	6
	指	標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

	分析▪評価(Che <mark>評価項目</mark>	eck) <u>※平成23年度の実績を評価</u> 評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い				
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	街道(歴史)ブームやウ ある街道を訪れる市民:	オーキングなどの健康志向により、歴史 が増えている。
		は減少していないか 	C (0)	ニーズが低い				
			A (2)	事業主体を見直す	-余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	文化財などの資源を守 必要がある。	り継承するためにも、市が事業実施する
			C (0)	市が実施する必要	性が低い			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の ・目的とする成果があがっているか 有効性 ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか			目的とする成果が	ある程度あがっている	В	年々街道ウオーキング ら、成果はある程度あた	イベントの開催回数が増えていることか がっている。
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	少人数・短期間で事業 れている。	実施を行っているので、コスト縮減は図り
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか		効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	B (1) ある程度効果があった		В	官道を散策することは、歴史探訪や健康意識への市民に対応しており、事業実施はある程度効果がある。	
		か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった			
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が 位山道(東山道飛騨支路)として都か	いら飛騨への	と文化が伝わった歴	・史ある道をより多くの人々し	こ知っても	もらう取組みが必要である	შ .
	(参考) H23事業評価編 (二次評価)		ა					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

草刈りの他、官道の整備を実施する。

	0	維持·改善		拡大		縮小		
次年度の 実施方針 ^(担当課評価)	歴史あ	る官道を守り、高山の文化	にかか	る官道の重要性を後世に	引き継ぐ	<i></i> ために、引き続き事業を編	迷続する	5.

	0	維持•改善		拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•市内	外へのPRや利活用につい	て検討 ^っ	する必要がある。			

廃止の検討

事	業名	947 枝 番	799	文化財標柱等設置事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421	
	会計		1	一般会計	特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予 算 項		9	教育費	—— 位置付け けの	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	こいる事業	
算			4	社会教育費			С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		7	文化財費	່'		D	その他事業		
	根拠計	画		地域振興計画						
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化則と人のつながりを大切にする語り部の育成に取り組み		りやす	く紹	介するためパンフレット、説明板等の整	張備や、人		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861	人					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・市民が名所・旧跡・文化財に触れる機会を通して、文化財保護意識の向上を図る。								
概要	事業の 実施手法 (手段)・旧宮村で整備された木製標柱を石製標柱に交換。									

2 事業の推移・結果(Do)

算出根拠等

	H23の実績	今までに設置されていた文化財のオ 	ド製標柱を	5ヶ所石製標	柱に交換した。		
		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	
活	標柱の交換数		個	目標値	5	5	
動指	保住の人揆数		1181	実績値	5	5	
標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	
ct;				日煙値	80	90	

	及 果 指	標柱の交換率		%	実績値	68	
	標	算出根拠等	交換件数/全体数		達成率(%)	85	
					目標値		
					宝结值		

ı					目標値		
ı	成				実績値		-
ı	果		算出根拠等		達成率(%)		_
ı	面				目標値		
ı				実績値		_	
ı			算出根拠等		達成率(%)		_
ı					目標値		
ı					実績値		_
ı			算出根拠等		達成率(%)		-

達成率(%) 補足事項

目標値 実績値

			(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	668	756	400
コス	刔	受	益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	₹0	の他特定財源(国	・県支出金・起債等)				
直	訳				668	756	400	
		スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	7	8	4
	指	標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は		ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ は減少していないか	ーズ B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙ある	Α	・広く地域の歴史文化をすることは市民のニース	を市民に周知し、地域の財産と ズが高い。	として継承
		は火火していないが	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・市指定の文化財の周知のため、文化財保護の観点から市 実施する事が妥当である。		いら市が
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	うか B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・年度ごとに計画的に交換してきており、成果は十分に上かいる。		に上がって
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	する成果があがってないため大幅な見直し である				
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担減する余地はないか	B (1)	事業効率化・コスト級	減等がある程度図られている	Α		った大きさの標柱や標識を、st ことでコスト削減をしている。	見状にマッ
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	が図られていないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか		効果があった				付けられており、文化財を守り	
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成な 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能		ある程度効果があ	果があった A			りの「国内外から訪れる多くの 分かりやすく紹介する」を達成	
		か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		217 (0.0)	_	
		合計	10	/ 10	\rightarrow		100点換算	100	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が・計画通り標柱の更新を実施し	ていく。						
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・平成26年度までに完了できるよう事			する必要がある。					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・今年度で一之宮地域の標柱交換を完了する。

		維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	0	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・標柱∶	交換は今年度で完了するだ	が、継続	もれて、 もれて、 もれて、 もれて、 もれて、 もれて、 もれて、 もれて、	る。				

	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H24完了予定
二次評価						
(企画課·総務課·財政課評価)						

闡	業名	951 枝 番	99	地域スポーツ振興事業 (一之宮体育大会開催事業)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421
	会計		1	一般会計	_{7.} 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款		9	教育費	位置付けの	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	項 5			保健体育費	付算	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目		1	体育総務費	''		D	その他事業	
	根拠計	画							
	市長公約	ı							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625	人				
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・町民がスポーツに親しむことで健康増進を進めるとともに、コミュニティ	ポーツに親しむことで健康増進を進めるとともに、コミュニティ醸成の向上を図る。						
概要	事業の 実施手法 (手段)	・一之宮体育大会事業への助成。 ・体育大会の開催(ソフトバレー、野球、ソフトボール、卓球、ゲートボール	レ、剣道、グランドゴル	/フ、スキー)					

H23の実績	一之宮町社会教育推進運営委員会体育部によって8月28日に一之宮体育大会が実施された。(参加者350人)

			 	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	\-T	<u> </u>	141**14	平位	目標値	450	450	450
	活動	競技参加者数		人				
	指				実績値	450	350	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	78	-
	成	町内加入率		%	目標値	100	100	100
	成果指	門と初れ入一		/0	実績値	76	75	-
	標	算出根拠等	町内加入世帯数/全世帯数		達成率(%)	76	75	-
					目標値			
늉					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
囬					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				之击	兄事佰			

			(人件費を	事業費 - 除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	170	160	150
コス	74.3	受益	者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			170	160	150
		コスト 受益者1件当たり(円)		り(円)	(A/B)	64	61	57
	指	標	受益者	一之宮地域住民(4月1日現在)	(B)	2,641	2,633	2,625

3	分析•評価(Che	eck) ※平	成23年度の実績を評価	İ																
	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)										
		・事業実施に	こ対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い														
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の	D変化など時の経過に伴い		B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		子供から高齢者までが交流でき、町民 業であり、依然としてニーズは高い。										
		は減少してい	,いないか		C (0)	ニーズが低い														
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・一之宮地域の町民がスポーツを通して多世代交流する											
2	市が実施する 必要性		生体であることは妥当か 引の活動と競合していない?	<i>τ</i> ν [B (1)	一部見直しが必要	しが必要である B 地域の活性化にもつな		地域の活性化にもつな	スポーツを通して多世代交流することで、 がるので、市が補助することは妥当であ 継続実施に向けた調整が必要である。										
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		0.7 、日上左日1-6 の売が大心に同けけた明正は必安(のか											
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている													
3	活動内容の 有効性		成果があがっているか よどの目標値の達成状況は	tどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・社教体育部の実施する 成されている。	る事業であり、地域の主体性から概ね達										
					C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である															
					A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない													
4	執行方法 の効率性			担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	・自主事業に向けた展開	開ができるように進めている。										
			地はないか		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である															
		があったか			<u></u>		<u></u>		<u></u>				か		A (2)	効果があった				付けられ、一之宮町民の体育振興につな
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能			B (1)	ある程度効果があった		Α	がるため、重要性は高い。長年開催されている事業で当 定着しており、町民の健康増進と多世代交流ができるた が上がっている											
		か	7天机を囚る工で行列で成	HEO/L	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		が上がっている。											
		合計			7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点										
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)・地域の中で長年継続され、定着している事業なので、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。																			
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。																			

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

維持·改善

・一之宮町民の社会体育の振興と健康増進といった観点から引き続き実施していくとともに、自主運営による継続実施に向けた調整を図る。

0

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

一之宮町民の社会体育の振興と健康増進といった観点から引き続き実施していくとともに、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。

縮小

廃止の検討

	維持·改善	拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)		の段階的な引き下げを行う ンスを考慮し、縮小(廃止)				

	事	業名	208 枝 番	399	公有財産管理事業 (林業資材倉庫解体)	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3412		
		会討	+	1	一般会計	, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	ら実施されているイベント・行事		
	予	款		2	総務費	位置付け の		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業		
1	算	項		1	総務管理費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
		田		8	財産管理費	" の		D	その他事業			
		根拠討	十画									
市長公約 市民のための行政改革を断行します・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休旅						設・土地など	ごの有	剪効剂	舌用を行います。			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・老朽化した危険な施設を取り壊すことで、住民の安心安全を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・老朽化した資材倉庫(木造)の解体。		

2 事業の推移・結果(Do)

		指標名	単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活	撤去建物面積	m²	目標値			115
	活動指標	版玄廷初山慎		実績値			-
	標	算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
成				実績値			-
成果面		算出根拠等		達成率(%)			-
ഥ				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
			補	足事項			

		(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	0	0	1,200
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 その)他特定財源(国·	県支出金・起債等)				
面		段財源			0	0	1,200
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	0	457
	指標	受益者	一之宮地域住民(4月1日現在)	(B)	2,641	2,633	2,625

3		eck) 💥						·			
	評価項目		評価観点		評価基	<u> </u>	評価	<mark></mark>	<mark>図の説明(評価</mark>	の理由等)	
	市民ニーズ		Eに対する市民ニーズの傾向はどう		ニーズが高い		評 価				
1	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴います。 する・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか ・の・は、現界指標などの目標値の達成状況は、表別ではなどのである。 ・最小限のコストで事業を実施であればないが・受益者負担は適正か・事業の実施が市の政策、施策の推進したのがあったか・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか・市長公約の実現を図る上で有効に機能がからた記入) ・おいるに関節がある。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			ある程度のニーズ	がある	対 象 外	H24新規事業			
				C (0)	ニーズが低い		ሃ ኑ				
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない	評 価				
2	市が実施する 必要性			B (1)	一部見直しが必要	である	対 象	H24新規事業			
				C (0)	市が実施する必要	性が低い	外				
				A (2)	目的とする成果が-	十分にあがっている	評価				
3	活動内容の 有効性			B (1)	目的とする成果があ	ある程度あがっている	対 象	H24新規事業			
				C (0)	目的とする成果があたが必要である	がってないため大幅な見直し	外				
				A (2)	事業効率化・コスト網	諸滅等の改善の余地はない	評				
4	の効率性	の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか		B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	価 対 象	H24新規事業			
		・受益者負担は適正か・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果			効率化が図られている 要である	ないため大幅な見直しが必	外				
	があったか 政策面に・総合計画及び主			A (2)	効果があった		評				
⑤	政策面に ・総合計画及び おける効果 上で有効に機能 ・市長公約の実		取び主要計画等の目標達成を図る機能したか	B (1)	ある程度効果があ	ots	価 対 象	H24新規事業			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能		C (i) あまり効果が見られなかった			外				
					/	\rightarrow		100点換算	評価	 対象外	点
(Г,	明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記 (参考) H23事業評価系 (二次評価)	めに何が 3人)									
4	今後の方向性(Action)									
	・ 今後の方向性(Action) 課題等に対する 今年度の対応状況										
			維持·改善		拡大	縮小		廃止の検討	1 0	H24完了 ⁻	予定
	次年度の 実施方針 (担当課評価)			ı		1	L		II		
			維持·改善		拡大	縮小		廃止の検討	1 0	H24完了 ⁻	 予定
(企	二次評価 È画課·総務課·財政								11		

事	業名	209 枝	999	一之宮地域力推進事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線	
	^ =	番		40.4.5			Γ.	A DIAL 1. 3 Philipping 7 4 8 1 47	3431	
	会記	†	1	一般会計	_{/-} 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	丁争	
予			2	総務費	置別		В	一般予算の上乗せとして実施されてし	る事業	
算	項		1	総務管理費	位置付けの	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		9	企画費	''		D	その他事業		
	根拠計画			地域振興計画						
7	市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な観	見光資	資源を	·新たな観光資源として積極的に活用し	ます	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮町地域の住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域資源を活用した「健康づくり」と「交流拠点の創出」を基調とした地域によって、魅力あるまちづくりを行う	或活性化策の洗い出し	, や掘り起しを行うこと
概要	事業の 実施手法 (手段)	・「健康づくり」として散策ルートの設定やマップなどを作成しPRイベント・「交流拠点の創出」としてモンデウススノーパークエリアの施設整備やメ・活性化を推進する一之宮地域活性化会議に負担金を交付する		マイベントを開催する

+	H23の実績	・一之宮地域内で散策しながら住民同士や来訪者が交流できる散策路の選定・散策中に立ち寄れる「町の駅」の設置に向けた調査・モンデウス飛騨位山スノーパーク内にドックラン及びキッズルームの整備・レストランの新規メニュー開発における調査
---	--------	--

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活動	一之宮活性化会議の開催件数		目標値	5	5	5
	指	と古わは心玄磯の開催け数	ш	実績値	3	5	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	60	100	-
	活動	活性化イベントの実施件数(調査事業を含む)		目標値	2	2	2
	動指標	石圧に「「V)「V)大心「女」(両直事末で占む)	ш	実績値	2	2	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成日	位山交流センター入場者数(冬季以外)	人	目標値	15,000	16,000	17,000
成	指	世山文加 ピンテーハ物 日奴(マ子以介)		実績値	15,213	16,274	-
成果面	標	算出根拠等		達成率(%)	101	102	-
皿				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
			補	足事項			

・一之宮地域再発見事業と連携したワーキングを開催している

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
			歳出 (千円)	(A)	1,200	1,200	1,200	
コス	74.3	益者負担(使用料	•負担金等)					
۲	源 その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
面					1,200	1,200	1,200	
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A∕B)	454	456	457	
	指標	受益者	一之宮町地域の住民	(B)	2,641	2,633	2,625	

3 :	分析·評価(Che 評価項目	ck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価	甘淮	評価	亚海内2	容の説明(評価の理由等)		
	計逥垻日	計逥稅点			基年	計Ⅲ	計順內	谷の説明(計画の理由寺/		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い				たさなと/D-t		
1	市民ニーズ の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		な交流を促すことにより地域力の向上 加することが期待できることからある程 る		
		は過失をしていないが、	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない			して市が地域住民と協働で推進するこ		
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	そである	Α	は妥当である ・本事業は平成24年度 のではない	完了するため、市の関与が継続する		
			C (0)	市が実施する必要	5性が低い		0) (12/20)			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			ハて、地域が自ら調査・研究することは を行う上で成果があがることが期待で		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)		ある程度あがっている	В		受けながら事業推進していることから、 ることができ、さらに成果があがることが		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		期待できる	ماد داد داد داد المركبية المركبة		
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		・地域の魅力を孰知する	る各種団体から選出された委員で構成		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)		諸滅等がある程度図られている	Α		会議」が必要最小限の事業コストで取り		
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	かないため大幅な見直しが必					
	14.W.Z.I-	••	事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る		効果があった			・地域の魅力の再発見	の魅力の再発見によって地域内が活性化し、さらに3 増加が期待できることから、ある程度の効果がある。 る	
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があ	らった	В	人口の増加が期待でき 込まれる			
		か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
(F _Z	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が・地域の活性化策について、単年度	で成果や効	果が期待できるもの	のではないが、継続実施して	こいくこと	が重要である			
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)		58							

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・事業の総まとめとして、地域再発見事業と連携しながら住民総参加による祭り(イベント)を開催し、効果を検証する

		維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	0	H24完了予定
次年度の 実施方針 ^(担当課評価)	•事業	完了後においても本事業で	き得られ	た成果・効果を利用し、地	域住民	が主体となった活性化方策	:თ「ひネ	ろがり」が期待できる		

		維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H24完了予定
	— > ⁄n ≅π /≖						
	二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)						
ı							

事	20 技	999	一之宮地域再発見事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3410	
	会計	1	一般会計	₄ 特		Α	合併前から実施されているイベント・行事		
予	款	2	総務費	位置 付別予算		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	1ている事業	
算	項	1	総務管理費	付算ける	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費	'' o		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
1	市長公約		積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価 ために、美しいふるさと認証制度を創設します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

Г		誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625	人			
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行うことにより、地域、・新たに発見・発掘した地域資源を活用し伝承・継承していく。	舌性化を図る。					
1	概要	事業の 実施手法 (手段)		形(岐阜女子大学)の視点による一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘および保存。 -キング活動による、新たな地域資源の再評価と活用方法、継承方法の検討。					

2 事業の推移・結果(Do)

	22年度に岐阜女子大学生により調査・記録した地域文化や地域資源の資料をもとに、岐阜女子大生と地域住民によるワーキング活動で地域文化・地域資源の再評価を行ない、活用方法と継承方法の検討を行なった。
--	---

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活動	ワーキング活動	乳促粉		目標値	1	15	15
	動指	フ インノル到	用任奴		実績値	1	16	-
	指標	算出根拠等			達成率(%)	100	107	ı
	成	ワーキング活動	业度	人	目標値	80	190	190
	成果指	ノ インノル到	山市省奴		実績値	74	169	-
	標	算出根拠等	出席者数		達成率(%)	93	89	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			ı
囬					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			ı
		算出根拠等			達成率(%)			1
				補	足事項			

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
		歳出 (千円)	(A)	719	807	1,000
コス		受益者負担(使用料・負担金等)	決算額 決算額			
7	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
面	訳	一般財源		719	807	1,000
	_;	スト 受益者1件当たり(円) (A/	B)	272	306	381

受益者 一之宮地域住民(4月1日現在) (B)

3	分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価 評価項目 評価観点 評価基準 評価 評価 評価 評価内容の説明(評価の理由等)												
	評価項目	評価観点		評価基	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)					
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう		ニーズが高い				、地域資源の発掘を主点とし、伝承の一					
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニース	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	の活用等、地域住民の	学習教材の作成、新たな観光資源として 関心も高く地域活性化につなげる事業で					
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			ある。						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない								
2	② 市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	_ ,,, ,	等の再発見・発掘により、地域力の保 いくために必要かつ重要な事業である。					
			C (0)	市が実施する必要	性が低い								
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			査・記録された資料をもとに、四部門の					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)		ある程度あがっている	В	ワーキングにより評価・活用方法・継承方法の活発な検討: なっている。						
			C (0)	目的とする成果があるが必要である	がってないため大幅な見直し								
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	『事業の効率化・省力化に向け実			市と連携協定を結んでし	いる岐阜女子大学に、学生を活用した調						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を車 減する余地はないか	B (1)		減等がある程度図られている	Α		し教材作成を委託しているため、他と比					
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必								
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか		効果があった									
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	地域振興計画に位置づけされ、地域の魅力を再発見し業地域振興を図るうえで、効果の高い事業である。						
L		מי		あまり効果が見られ	れなかった I			Γ					
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>k</u>					
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 「「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)												
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・成果の有効活用について検討する必要がある。												

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

2,625

22年度の調査・記録・保存、23年度の評価・検討を踏まえ、地域資源の活用・継承に向けた継続可能な活動等を展開する。

	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H24完了予定
次年度の						
実施方針 (担当課評価)						

		維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H24完了予定
	_ / _≅i_i=						
	二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)						
ı							

	事業名 218		899	- 「源流の里」ほたるの舞う里づくり事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431		
	会計 1			一般会計	, 特	合併前から実施されているイベント・行	事				
	予算 款 項		2	総務費	位置付ける		В	一般予算の上乗せとして実施されている事			
拿			1	総務管理費	付算 けの	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
		目	18	環境政策費	'' Ø		D	その他事業			
	根拠	計画		地域振興計画							
	市長公	 \:	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な額	見光資	資源を	を新たな観光資源として積極的に活用し	ます		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人	
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・源流地域の恵まれた自然を守り、地域住民の愛郷精神を育む。			
概要					

2 事業の推移・結果(Do)

	・ホタルの生息調宜
H23の実績	・ボタルの生息調査 ・ほたるの環境整備
	・ほたるの講習会の開作

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24	
	活	ホタルの生息調査地点啓発看板設置数	箇所	目標値	5			
	活動指標	ハブルの工心調査地点各先有 似故 巨女	回川	実績値	5		-	
	標	算出根拠等		達成率(%)	100		-	
	活	ホタル環境整備箇所数	箇所	目標値	2	2		2
	活動指	ハブル 環境 登 哺 画 別 致	固別	実績値	2	2	-	
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
	成			目標値	100	200		300
成	成果指標	ホタル個体確認数	匹	実績値	97	235	-	
果面	標	算出根拠等		達成率(%)	97	118	-	
血				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
			補	足事項				

・有識者の意見を聞くホタル保護講習会を開催し、ホタルが生息できる環境づくりの充実に取り組んでいる

			(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含	(학)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	289	255	400
コス	74.3	受益	者負担(使用料	• 負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面		一般	財源			289	255	400
	コスト		受益者1件当た	り(円)	(A/B)	3	3	4
	指标	票	受益者	全市民	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析・評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価									
	評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)					
	市民ニーズ	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はとか				うな環境整備を実施することによって、					
1	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー は減少していないか	ズ B ⑴ ある程度のニーズがある	В	個体数が増加している。 つながる。	ことから、環境保護に対する意識向上に					
F			A (2) 事業主体を見直す余地はない								
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1) 一部見直しが必要である	Α	・ホタルが生息できる環境整備(ハード整備)が整うまで 実施することは妥当である						
			C (ii) 市が実施する必要性が低い								
			A (2) 目的とする成果が十分にあがっている		・ホタルが生自できる瑨	境整備の実施により、ホタルの確認個					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどう		Α	体が増加していることから成果が十分にあがっている ・環境整備については有識者の指導を得て実施している						
			C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である								
	+1 < >+	・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省力化に向け	事業の効率化・省力化に向け実		士 吉 孝 (土) b = N D 0 (- 5						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を 減する余地はないか		Α	・本事業は地元NPOに会 組んでいるため、適正で	委託しており、必要最小限の経費で取り ごある					
L		・受益者負担は適正か	C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である								
	政策面に	・事業の実施が市の政策、施策の推進に交があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を	z		・ホタルの個体数の増加により、市民に環境保護に対する効果 が期待できる						
5	おける効果	で有効に機能したか 市長公約の実現を図る上で有効に機能した	と は (1) める程度効果がめつた	В							
		か	C (ii) あまり効果が見られなかった								
		合計	8 / 10		100点換算	80 <u></u>					
(F	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)										
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・自然環境の保全についての市の関わり方について整理する必要がある										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・ホタルの個体数を増加させるべく、新たな場所の環境整備を実施する

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・ホタル	レの環境整備は継続して実	施してい	べとともに、環境保全とし ⁻	ての情報	報発信など活用方法を検 診	寸する		

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
		地域とのバランスを考慮し、 予算で実施している蛍保護		5 3。		

事業名 532		299	ダナ平林道整備事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431			
会計				一般会計	4.特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
予款		5	農林水産業費	位置付ける		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業			
算	算項		3	林業費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目		2	林業振興費	''	D		その他事業			
	根拠詞	十画		地域振興計画							
ī	市長公糸	ঠ	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な額	見光資	資源を	F新たな観光資源として積極的に活用し	ます		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	ダナ平林道利用者	対象者数	2,000 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・勾配が急な区間において計画的に舗装を新設整備する		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績	・舗装の新設工事を実施する
H23の美績	・舗装の新設工事を実施する ┃

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	舗装済延長		m	目標値	1,959	2,279	2,599
	活動指標	神衣 /月 烂 文			実績値	1,969	2,283	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	101	100	-
	成	位山登山者数	L 1 . 70 . 1 . ±v ¥L		目標値	1,800	1,900	2,000
	成果指標	位山豆山石奴		人	実績値	1,750	2,270	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	97	119	-
					目標値			
时					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含	t)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
			歳出 (千円)	(A)	4,841	4,841	5,000	
コス		者負担(使用料	•負担金等)					
۲	源 内	他特定財源(国	•県支出金•起債等)		2,420	2,420	2,500	
面		財源			2,421	2,421	2,500	
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,766	2,133	2,500	
	指標	受益者	位山登山者	(B)	1,750	2,270	2,000	

3 :		ck) ※平成23年度の実績を評価		27 Pm	++ >#-	== / =	=7/17 - 4-6	→			
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)				
	市民ニーズ	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう か	A (2)	ニーズが高い			・ 位山巻山老や石掛・日	5木を訪れる方などダナ平林道の利用(
1	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	ついてはある程度ニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い							
	市が実施する	・市が事業主体であることは妥当か	A (2)	事業主体を見直す	⁻ 余地はない 						
2	必要性	・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・市が管理すべき施設の	のため、事業主体を見直す余地はない			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い						
	江動中宮の	ロめしナスド田がもがっていても	A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・レクレーション機能など	ど多面的機能をもつ林道を整備すること			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)		ある程度あがっている	Α	は利用者の利便性の向上になり成果があがっている ・林道整備は、計画的に整備さてれいる				
				目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し						
	+4 44->4	・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)				日の社は古米し マ!!				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)		減等がある程度図られている	Α	・県の補助事業として 努め計画的に事業を実	引されており、コスト縮減や経費節減に 施している			
		・受益者負担は適正か	C (0)	安である							
	政策面に	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る	A (2)	効果があった		В	・ダナ平林道は位山登に	山道にアクセスする道路になっている <i>た</i>			
5	おける効果	*総合計画及び主要計画寺の日標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があった			め、自然資源を観光資源と活用するために有用である ある程度効果がある				
		ħ	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった						
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点			
(F#	分析・評価で 明らかになった課題 「「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)										
(参考) H23事業評価結果 (二次評価)											

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・利用者の利便性の向上を図るため早期発注に努める

維持·改善

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・できるだけ早期に完成するよう計画的に事業推進を行う

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当)	課評価に同じ)				

縮小

廃止の検討

H24完了予定

拡大

事業名			199	「源流の里」登山道・遊歩道整備事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431	
	会記	_	1	一般会計	特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	空 "		6	商工費	位置付け の		В	一般予算の上乗せとして実施されている		
算			2	観光費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目		3	自然公園費	''		D	その他事業		
	根拠詞	十画		地域振興計画						
				積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な観	見光資	資源を	·新たな観光資源として積極的に活用し	ょす	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	登山道利用者	対象者数	2,000 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・恵まれた自然を守り、新たな観光スポットとして創出する		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・登山道・遊歩道など自然とのふれあいや自然を学ぶことができる場の動	整備をする	

2 事業の推移・結果(Do)

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24		
	活	登山道·遊歩道整備延長	m	目標値	1,800	2,900	4,550		
	活動指標	豆山垣· <i>匹沙</i> 坦亚佣姓氏	111	実績値	1,800	2,900	-		
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-		
	成	位山登山者数	人	目標値	1,800	1,900	2,000		
	成果指	世山豆山有数		実績値	1,750	2,270	-		
	標	算出根拠等		達成率(%)	97	119	-		
				目標値					
成				実績値			-		
成果面		算出根拠等		達成率(%)			-		
皿				目標値					
				実績値			-		
		算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値					
				実績値			-		
		算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値					
				実績値			-		
		算出根拠等		達成率(%)	_		-		
			補	補足事項					

・遊歩道や登山道を整備することにより、餅谷の滝など新たな観光スポットが再発見されている

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む	;)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	4,515	4,899	6,000
コス	21.2	受益	者負担(使用料・	·負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	県支出金·起債等)				
面	訳 .	一般財源				4,515	4,899	6,000
	コス	VI.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,580	2,158	3,000
	指	漂	受益者	位山登山者	(B)	1,750	2,270	2,000

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど		ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・位山登山者や巨樹・目 用についてはある程度	E木を訪れる方など登山道・遊歩道の利 ニーズがある		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		地域の白砂次流ナギ	かに知业次海し て利田でもでしる 士が		
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	B (1) 一部見直しが必要である			・地域の自然資源を有効に観光資源として利用できるよう、引登山道・遊歩道の整備をすることは、地域振興や観光振興とり妥当である			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		73300			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		- 1 . クレー・ション . 世級会に去った	有する登山道・遊歩道を整備することは		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	利用者の利便性の向上	月9る豆山垣・班少垣を登備りることは こになり成果があがっている。 は、計画的に整備さてれいる		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		・登山道・遊歩道整備に必要な資材については、現地の間			
4	の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	E軽 B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		Α	を利用するなどコスト縮減や経費節減に努め計画的に事業を 施している			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	(0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効 があったか	h果 A (2)	効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があ	oots	В	・地域を象徴する位山や川上岳など観光資源の有効活用や 用者の利便性向上にはある程度の効果があった			
		・印度公利の美現を図る工で有効に機能したか		あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点		
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が かに何が・コスト縮減に努め、計画的に事業	業推進を行う							
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)	・できるだけ早期に完成するよう計	計画的に事業技	生進を行う						

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・利用者の利便性の向上を図るため早期発注に努める

	0	稚持"収普		払入	が	廃止の検討	H24元「予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・できる	らだけ早期に完成するよう言	十画的(こ事業推進を行う			

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	・整備し	した登山道等の活用の促進	進を図る	必要がある。			

事	事業名		199	「源流の里」案内看板整備事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431
	会討	番 十	1	一般会計	特		А	合併前から実施されているイベント・行	
予款			6	商工費	位置付けの		いる事業		
算	項		2	観光費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		3	自然公園費	''		D	その他事業	
	根拠詞	十画		地域振興計画					
ī	市長公糸	必	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化 ⁷	など多様な勧	見光資	資源を	を新たな観光資源として積極的に活用し	ょす

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客(一之宮地域)	対象者数	200,000 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域を訪れた方が安心して周遊できる観光地づくりを行う ・新たな景観の創出を図る		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・景観と調和した地域の総合案内看板を計画的に整備する		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績・木製案内看板の整備

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24			
	活動	総合案内看板設	罢为	箇所	目標値	1	1	1			
	動指	秘口米内省似 政	巨奴	回川	実績値	1	1	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-			
	成	観光客数(一之宮		人	目標値	200,000	200,000	200,000			
	成果指	既儿合奴(一人)	5.104%/		実績値	206,950	192,540	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	103	96	-			
					目標値						
成					実績値			-			
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-			
田					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			-			
					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			-			
					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			-			
				補	補足事項						

・地域の景観にふさわしい案内看板を設置することにより、潤いとおちつきをもたらす美しい景観形成の向上が図られている

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	1,967	924	1,000
コス	2	受益	者負担(使用料・	•負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金•起債等)				
面		一般	財源			1,967	924	1,000
	コス	VI.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	10	5	5
	指標	票	受益者	観光客(一之宮地域)	(B)	206,950	192,540	200,000

3 :	分析·評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
	市民ニーズ	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか		ニーズが高い			・地域を訪れる人が地域	ずの観光資源の情報が容易に入手でき		
1	の確認	・ ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	ることからある程度ニー			
			C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		て総合案内看板は観光情報源として市 まを行うことは妥当である		
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		田園風暑にマッチした。	統一された看板をJR飛騨一ノ宮駅や臥		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	龍公園など集客施設や	観光施設周辺に設置することにより利用 寺できることからある程度成果が見込ま		
			C (0)	目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し		れる			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	3 (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている A ・統一された看板を設置する。		置することにより、コスト縮減を図っている				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	(2) 効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)				、体制の環境整備に必要であり、整備効 ることから、ある程度効果が見込める			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)							
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 <u>ś</u>		
([,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> けに何が ・コスト縮減に努め、計画的に事業技	進を行う							
	(参考) H23事業評価総 (二次評価)	吉果 ・計画どおり順次整備する								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・利用者の利便性の向上を図るため早期発注に努める

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・計画と	どおり順次整備する				

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当詞	果評価に同じ)				

	事	業名	947 枝 番	799	天然記念物(希少動植物)生態環境調査事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3421	
		会計		1	一般会計			Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
3	7	款		9	教育費	世別置之		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
\$	算 項 目			4	社会教育費	位置付け	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
				7	文化財費	''		D	その他事業		
	根拠計画 地域振興計画										
	市長公約			9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価 ために、美しいふるさと認証制度を創設します。	値のある有	形無	形の	伝統文化や文化財などの資源を保存だ	舌用する	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・一之宮地域には市指定天然記念物として希少動植物(苅安湿原植物まているが、昨今の環境変化等による影響が危惧されている。当該動植物対策を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・苅安湿原環境対策調査(湿原保全、植生保存等対策方法の検討等)・ミヤマシジミ、バイカモの生態調査および保存対策の検討		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績 H24新規事業

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	現地生態調査の)宝饰同物		目標値			8
	活動指標	坑地土凉 侧直♥	7天旭回奴	Е	実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成	湿原回復率		%	目標値			80
	成果指標	湿冰凸及牛		/0	実績値			-
	標	算出根拠等	湿原回復面積/湿原全体面積		達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Щ					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		ı	達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費る	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	0	0	1,200
コス		·者負担(使用料	•負担金等)	_			
۲)他特定財源(国	·県支出金・起債等)				
面		段財源			0	0	1,200
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	0	13
	指標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

	分析·評価(Che 評価項目	eck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価基準	評価	評価内!	容の説明(評価の理由等)	
	п ш-х п	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い	評	д г пш г з	T ON DESTRUCTION OF THE COMMENT OF T	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズがある	価 対 象	H24新規事業		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い	外外			
			A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要である	対 象	H24新規事業		
			C (0)	市が実施する必要性が低い	外			
			A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		目的とする成果がある程度あがっている	対 象	H24新規事業		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である	外			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	計			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている	象	H24新規事業		
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である	外			
	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか・市長公約の実現を図る上で有効に機能した		A (2)	効果があった	評価			
⑤			B (1)	ある程度効果があった	対 象	H24新規事業		
		tr.	C (0)	あまり効果が見られなかった	外		T	
		合計		$/$ \rightarrow		100点換算	評価対象外	点
(Γ,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	課題 かに何が						
(参考) H23事業評価結果 (二次評価)								
4	- 今後の方向性(Action)							
	課題等に対す 今年度の対応な							

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H24完了予定 次年度の 実施方針 (担当課評価) ・本年度の調査結果をもとに、保護対策を検討し、天然記念物(苅安湿原、バイカモ、ミヤマシジミ)の保護育成の処置を実施する。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	·市指》	定天然記念物保護における	市全体	ҍのバランスを考慮しつつ、	文化財	計課と調整を図りながら実施	する必	要がある。	

事	業名	621 枝 番	199	清酒臥龍桜釀造助成事業	担当課			一之宮支所 基盤産業課	内線 3431
	会討	t	1	一般会計	, 特	合併前から実施されているイベント・行	るイベント・行事		
予	款		6	商工費	位置付け の	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
算	算 項		2	観光費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
				観光振興費	່, ທ	0	D	その他事業	
				地域振興計画					
市長公約		ن	1	積極的な観光振興策を実施します ・高山にふさわしい土産物の開発、生産、パッケージ	化、販売を3	支援し	します	-	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域の特産品として清酒臥龍桜を利用した観光振興を図る ・臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・清酒臥龍桜を一之宮地域のみで限定販売する ・清酒ラベルに日本画大賞展審査員の原画を採用する ・清酒臥龍桜を醸造する飛騨一之宮酒販売組合に補助金を交付する		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

・清酒臥龍桜のラベル原画代 ・臥龍桜・桜まつり会場における啓発宣伝(試飲)活動

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	连海町 乾炒山井	± %h	本	目標値	2,000	2,000	2,000
	動指	清酒臥龍桜出荷	本 致	4	実績値	2,000	2,000	-
	指標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成	清酒臥龍桜販売	木数	本	目標値	2,000	2,000	2,000
	果指	/H /CIENTETS MX/L	T-3A	7	実績値	2,000	1,800	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	90	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				紺	足事項			

・特産品としての宣伝効果以外に臥龍桜や臥龍桜日本画大賞展の宣伝に波及効果がある

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む	t)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	150	150	150
コマ	74.3	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			150	150	150
		△ 1.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2	2	2
	指	標	受益者	全市民	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析•評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
	+ ~	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズの確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・地元限定販売の特産	品としてある程度のニーズがある	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		. 的 卷松 口 木 画 大 常 屈 /	の審査員に商品ラベルを採用しているこ	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	とや位山の湧水を取水	の番重員に同品がいたを採用しているこ しており、地域の観光宣伝に有効である 5ことについては妥当である	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・市口太大雲巛による毎	現光客の減少などにより販売本数は減少	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В		中においても目標達成が高いことから、	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	・事業コストは必要最小ある	小限の経費で取り組んでいるため、適コ	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	っった	В	・臥龍桜や位山の湧水は効果的である	(源流)の宣伝効果もあり情報発信として	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点	
([,	分析・評価で明らかになった。 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が・消費者ニーズによる出荷本数の検	討やPR方	法の検討を行う					
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)	・ 一、			つ、行政の関与を段階的に	縮小して	いく必要がある		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・消費者ニーズによる出荷本数の検討やPR方法の検討を行う

次年度の 実施方針 (担当課評価) ・事業者が自主的に取り組みことができるよう課題の整理を行う		0	維持•改善		拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	実施方針	・事業	者が自主的に取り組みこと	ができる	るよう課題の整理を行う			

	0	維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•特例:	期間終了を見据え、市全体	(のバラ	シスを考慮し、行政の関与	・負担会	金について縮小(廃止)を検	討して	いく必要がある。	

事業名		92299 枝 番		地域小学校教育振興事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3413	
	会記		1	一般会計	特別予算の		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款		9	教育費			В	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
算	項	į	2	小学校費			С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		2	教育振興費	''	0	D	その他事業		
	根拠詞	十画		地域振興計画						
ī	市長公紀	约								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の小学5年生	対象者数	34 人								
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・神通川の源流域と下流域(富山県岩瀬地区)の子どもたちが交流する。 然保護の重要性を学んでもらう。	・ 低域と下流域(富山県岩瀬地区)の子どもたちが交流することで、源流域の森の大切さを知るとともに自性を学んでもらう。									
概要	事業の 実施手法 (手段)	*神通川の最終到達点である畠山県岩湖地区の小子5年生どの父流を美施する。 実施手法 ・										

2 事業の推移・結果(Do)

・6月、宮川(神通川)の源流域の宮小学校児童(5年生)と河口域の富山市の岩瀬小学校児童と交流を行った。 H23の実績 ・12月、宮小学校での「がりゅう発表会」で体験研究結果発表会を実施した。

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活動	参加人数		人	目標値	25	26	34
	動指標	沙加八 奴			実績値	25	25	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	96	-
	成	交流参加率		%	目標値	100	100	100
	成果指	スルシルー		/6	実績値	100	96	-
	標	算出根拠等	参加者数/対象者数	達成率(%)	100	96	-	
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		ı	達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
			歳出 (千円)	(A)	110	110	110	
コス	2.2	益者負担(使用料	•負担金等)					
۲	源 内	か他特定財源(国・	·県支出金・起債等)					
面		投財源			110	110	110	
	コスト	受益者1件当たり(円) (A/I		(A/B)	4,400	4,231	3,235	
	指標	受益者	一之宮地域小学5年生	(B)	25	26	34	

	分析·評価(Che 評価項目	ck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価	基 準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)			
	III M. X. H	H I IMP POOPIN	A (2)	ニーズが高い		H I III	j.	T 00 100 03 (11 lim 00) T FM (3)			
	市民ニーズ	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか			184 7	_	・交流した児童が、市民	。 とに対して体験研究発表、啓発しており			
1	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	かめる	В	ニーズはある。				
			C (0)	ニーズが低い							
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない						
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	С	・自主事業、予算組替な	などに向けた将来計画が必要である。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い						
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている						
3	活動内容の	・目的とする成果があがっているか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・地元だけでなく、最下流のことを知り、その児童たちと自然の重要性を共有することは非常に有効である。				
	有効性	・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	C (0)		がってないため大幅な見直し						
		・最小限のコストで事業を実施できているか		が必要である	冷ぱなのひまの合地はない						
	執行方法	・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか	A (2)		縮減等の改善の余地はない		・ 子 ども会としても、同地	也区と交流事業がある。(一年おきにお			
4	の効率性	・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか	B (1)		減等がある程度図られている	С		で			
		受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった							
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	ot:	В	・交流した児童が、市民に対して体験研究発表、啓発してな 概ね市民全体への効果はある。				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	C (i) あまり効果が見られなかった							
		合計	4	/ 10	\rightarrow		100点換算	40 点			
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・地域振興特別予算終了を見据え、現在実施している他市町村学校との交流の高山市全体のバランスを考慮し、縮小・事業統合・自主事業化などを検討する必要があ											
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 源流域の役割を認識させるための事業として重要であるので、26年度まで引続き実施していく。

拡大

維持·改善

・一之宮社教こども会主催の同種の事業との将来に向けた調整も必要。

次年度の 実施方針
(担当課評価)

・源流域の役割を認識させるための事業として重要であるので、26年度まで引き続き実施する。地域振興特別予算終了を見据え、高山市全体の他市町村等の学校間 交流のバランスを考慮する必要がある。また、交流相手の学校も年間行事日程策定があるため、廃止または事業変更等は2年程前に通知が必要と思われる。

縮小

廃止の検討

H24完了予定

		維持•改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	・特例類	期間終了を見据え、市全体	のバラ	ンスを考慮し、縮小(廃止)	を検討	する必要がある。		

0

事業名		209 枝 番	99	地域振興事業補助金	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3411	
	会討	+	1	一般会計	4.特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款		2	総務費	位置付け		В	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
算	項		1	総務管理費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		9	企画費	''	0	D	その他事業		
	根拠詞	+画								
ī	市長公糸	ار								

1 事業の目的・概要(Plan)

ı		誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625 人							
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、住民自らが主体となって事業に取り組むことにより、地域の活性と地域コミュニティの醸成を図る。									
	概要	事業の 実施手法 (手段)	・地域住民が自主的に取り組む、公共性の高い事業に対しての助成。									

2 事業の推移・結果(Do)

・一之宮地域の町内会や任意団体 計10団体から申請および実績があった。住民自らが主体となって地域振興事業に取り組まれた結果、安全安心な住環境が整うとともに、特色ある地域づくりや地域活性化、地域コミュニティの醸成が図られた。

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	補助金交付申請件数	*4	件	目標値	10	10	10
	動指		計文		実績値	7	10	-
	標	算出根拠等 交伯	付申請件数		達成率(%)	70	100	-
	活動	補助金交付申請額		千円	目標値	3,000	3,000	3,500
	指	州助亚文门中胡钦		117	実績値	2,825	2,835	-
	標	<mark>算出根拠等</mark> 交付	付申請額		達成率(%)	94	95	-
	成果指標	補助金交付実績件数	粉	件	目標値	10	10	10
成		冊切並又行失順件第	9 2	П	実績値	7	10	-
果面		<mark>算出根拠等</mark> 交付	付実績件数		達成率(%)	70	100	-
Щ	成	補助金交付実績率	本		目標値	90.0	90.0	90.0
	果指	間切並入門大帳中		%	実績値	94.0	94.5	-
	標	<mark>算出根拠等</mark> 交付	付実績額/予算額		達成率(%)	104	105	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
		歳出 (千円)	(A)	2,825	2,835	3,500
コス	21.3	者負担(使用料・負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国・県支出金・起債等)				
面		財源		2,825	2,835	3,500
	-1VI.	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,070	1,077	1,333
	指標	受益者 一之宮地域住民(4月1日現在)	(B)	2,641	2,633	2,625

	分析·評価(Che 評価項目	ck) ※平成23年度の実績を評価 評価観点		評価	其淮	評価	評価内 2	容の説明(評価の理由等)		
	TIW 次口	計画就無			坐干	可叫	T M V V	古の記め(計画の写出寺)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い				民のニーズはある程度高くなっている。± ヨ活動の補助であり、市民ニーズにもマ・		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	チしている。			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			・住民の自主的活動をある。 	より進めるには、更なるPRの必要性がも		
			A (2)	事業主体を見直す	-余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりの推進 全安心なまちづくりのための重要な事業である。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている			・住民自体が主体的・自	3主的に取り組む事業であり、活動実施		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	によって地域の活性化 ・補助金交付実績率も9	サコミュニティの醸成が図られている。 90%を上回っており、目標値を達成して		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		いる。			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	(2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽		B (1)	事業効率化・コスト縮	高減等がある程度図られている	Α		見積書を添付してもらうことで、適正な署 「方法等は効率的である。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった						
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	かった	Α	・地域の個性あるまちづくりや住民によるコミュニティ醸成れているところから、市の政策、施策に効果をもたらしてい			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		솜計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 [±]		
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)										
(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

0

維持·改善

・町内会長会や班長会で地域振興事業補助金について説明するとともに、申請時における相談にも対応する。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・住民の主体的な地域振興事業活動という観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終期としている事業であることから、平成27年度以降の対応も検討する 必要がある。

縮小

廃止の検討

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当	4課評価に同じ)				

事	2 ^位	0999	地域要望対応事業	担当課			一之宮支所 地域振興課	内線 3411	
	会計	1	一般会計	_{7.} 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	Anhr-		総務費	位置付ける	B 一般予算の上乗せとして実施さ			る事業	
算	算 項 目		総務管理費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
			企画費	''	0	D	その他事業		
	根拠計画								
ī	根拠計画 市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,625 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・市有施設の修繕等、地域からの要望に即座に対応する。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・市道、水路など公共施設の軽微な修繕。		

2 事業の推移・結果(Do)

		H23の実績	地域から9件の要望があり、市道の 迅速に確保された。	修繕工事	等を行った。支	所長権限で即座に	対応できることから	、地域の安全性が
			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	要望対応件数		件	目標値	6	10	10
	動指	安主刈心什奴		1+	実績値	4	9	-
	標	算出根拠等	要望対応件数		達成率(%)	67	90	-
	成	事業実績金額		%	目標値	90	90	90
	果指	争未夫棋並領		%	実績値	28	99	-
	標	算出根拠等	実績金額/予算額		達成率(%)	31	110	-
					目標値			
ᆄ					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			
		· (人(事業費 件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算		H23 央算額	H24 予算額

歳出 (千円)

<mark>受益者</mark>一之宮地域住民(4月1日現在) (B)

財 受益者負担(使用料・負担金等)

コスト 受益者1件当たり(円)

その他特定財源(国・県支出金・起債等)

源 内 その他特定 一般財源

	分析∙評価(Che <mark>評価項目</mark>	eck) <u>※平成23年度の実績を評価</u> 評価観点		評価基	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い							
1	市民ニーズの確認	・ 争来実施に対する旧氏――への傾向はとうか ・ 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・市有施設に関する地域	或要望に支所長権限で即座に対応でる 高い。			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い							
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない						
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		F)の修繕は軽微なものが少なく、住民 5、市が実施する必要性が高い。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い						
			A (2)	A ② 目的とする成果が十分にあがっている			・地域の要望に即座に	対応できるため、活動内容は有効性か			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	い。 ・成果目標を達成させる	らためには、引き続き地域へのPRが必			
			C (0)	目的とする成果があるが必要である	がってないため大幅な見直し		である。				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を転 減する余地はないか		A (2)	事業効率化・コスト線	宿減等の改善の余地はない						
4			B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	・市事業として設計管理 問題はない。	目のもとに実施しているので、コスト的!			
		減する宗地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか	A (2)	A (2) 効果があった B (1) ある程度効果があった							
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)			Α	・地域の要望に即座に対応できるため、住民満足度も高 政策、施策に効果をもたらしている。				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見られ	いなかった						
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 点			
([4	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)										
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

0

維持·改善

・町内会長会や班長会で地域要望対応事業について説明するとともに、要望書提出時にもアドバイス等行っている。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

8,500

8,500

3,238

2,625

4,952

1,881

321

2,641

・地域の要望に即座に対応していくという観点から、引き続き実施する。また、平成26年度を終期としている事業であることから、平成27年度以降の対応も検討する必要がある。

縮小

廃止の検討

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当	4課評価に同じ)				

事	業名	枝番	土地借上料	担当課			一之宮支所	内線 3431	
	会討	+		, 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款			世別置る	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業	
算	項			位置付けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目			''		D	その他事業		
	根拠討	十画							
ī	市長公糸	9							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	各施設利用者数	対象者数	92,740 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・施設用地の借上げ		
概要	事業の 実施手法 (手段)			

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

・JR飛驒ーノ宮から臥龍公園連絡通路用地借上げ A=470㎡ ・モンデウス飛驒位山スノーパーク案内看板用地借上げ A=8.6㎡ ・簡易水道配水管路用地借上げ A=37㎡

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
活	用地の借上げ面	千 丰	m²	目標値	516	516	478
動指	用地の旧工门面	惧	""	実績値	516	516	-
標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
活動	四卷抄 炒十つ口	本担	人	目標値	40,000	40,000	40,000
動指	臥龍桜・桜まつり	术场白蚁	_ ^	実績値	50,000	35,000	-
標	算出根拠等		•	達成率(%)	125	88	-
活動	エンデカス飛艇が	立山スノーパーク来場者数		目標値	50,000	50,000	50,000
動 指	モンナリ人飛騨1.	MUAノーハーク未場有数	人	実績値	43,195	45,072	-
指 果 面	算出根拠等		•	達成率(%)	86	90	-
活	笠 日 北 送利 田本	用者数(給水人口)		目標値	2,740	2,740	2,740
動指	間易小坦利用白	致(柏小人口)	人	実績値	2,602	2,641	-
標	算出根拠等			達成率(%)	95	96	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		•	達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		•	達成率(%)			-
			補	足事項			

・簡易水道配水管施設用地については、交渉により市の基準単価となった ・モンデウス飛騨位山スノーパーク案内看板用地については、看板の老朽化により一部廃止した

			(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	894	467	447
コフ	財	受益	者負担(使用料・	·負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国・	県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			894	467	447
		- スト 受益者1件当たり(円) (A/B)			9	6	5	
	指	標			(B)	95,797	82,713	92,740

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価												
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)					
	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	A (2)	ニーズが高い								
1		か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い= は減少していないか	ニーズ B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙゙ある	В	・観光施設や観光案内施設などの施設用地のため、ある程度のエーズがある					
		100000000000000000000000000000000000000	C (0)	ニーズが低い								
	市が実施する 必要性		A (2)	事業主体を見直す	- 余地はない	В	・市が今後継続して管理すべき施設か否か一部見直しが必要である					
2		・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	そである							
			C (0)	市が実施する必要	性が低い							
	活動内容の 有効性		A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		知业长气及知业安全					
3		・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか B (1)		ある程度あがっている	В	・観光施設や観光案内施設などの施設用地のため、ある程度の 成果があがっている					
L			C (0)	が必要である	がってないため大幅な見直し							
	執行方法 の効率性	・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向 施手法に改善の余地はないか			縮減等の改善の余地はない	В	・市の基準単価に合うよう一部見直しを行い、コスト縮減がある 程度図られている					
4		・国等の補助金の活用など市の財政負担減する余地はないか		効率化が図にれては	記滅等がある程度図られている 							
L		・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である								
	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成	た図る	A (2) 効果があった			・観光振興などある程度効果があった					
5		上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能	能した	B (1) ある程度効果があった C (a) あまり効果が見られなかった								
		מ	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		<u> </u>					
		合計	5	/ 10	\rightarrow		100点換算	50 #				
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)											
	(参考) H23事業評価約 (二次評価)		渉を継続する必	必要がある								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・市とし	しては現在必要な用地では	あるが	、施設の継続性も含め、市	の基準	単価となるよう継続して交え	歩する		

		維持•改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	·市の	基準に近づくよう単価交渉を	を継続す	する必要がある。				